

外部評価報告書

平成25年12月

長岡工業高等専門学校

まえがき

高専教育の特長として一般的には早期からの専門教育が上げられますが、むしろ人生において最も多感な時期に人格形成と技術者教育を同時に行なっていることに高専教育の本質があると考えられます。早期技術者教育の重要性は、狭い分野の高度な専門知識や技術を学ばせることより、むしろ実践を通して技術者として必要な基礎知識や技術に対する考え方・取組み方を植え付けることにあります。合わせて、課外活動、寮教育、社会体験、国際体験などを通じて人格形成を図ることも高専の重要な使命です。平成20年の中央教育審議会答申、或は企業等へのアンケート結果でも、概ね高専卒業生の素直さ、真面目さ、「ものづくり」への姿勢や熱意などが高く評価されており、高専での教育を強く反映した結果となっています。企業からの高い求人倍率や国立大学の高専卒業生に対する3年次編入の積極的受入れは、このような高専の教育が社会・地域から支持されていることを示す客観的な評価の一つとありがたく受けとめております。一方、急激な少子化、グローバル化や社会ニーズの変化など高専を取り巻く環境も大きく変化しており、高専の運営や教育研究活動の継続的改善に加えて将来を見据えた大胆な改革も求められています。

長岡高専では、毎年、自己点検・評価を行ない、改善・改革の努力を重ねておりますが、3年に一度、有識者の方々に大局を見据えた客観的な立場からの評価をお願いしております。今回の外部評価委員会では、熱のこもった質疑応答およびアンケートへの回答を通して貴重なご提案やご意見を頂き、また、力強い応援のお言葉や厳しいご指摘も頂きました。全てにおいて、評価委員の方々の「長岡高専をより良くしたい」との気持ちが溢れており、大変、感激しております。一方、評価委員の方々に私たちの活動を十分にお伝えできていなかった部分もあり、大いに反省しております。私たちは頂いたご意見やご提言を真摯に受け止め、今後の長岡高専の運営、教育研究活動に活かしてまいります。

外部評価委員の方々には、ご多忙にもかかわらず評価委員を引き受けて頂き、心より御礼を申し上げます。また、長岡技術科学大学の新原 皓一学長には外部評価委員長として委員会の進行から報告書の取りまとめに至るまで多大なるご尽力を頂きましたことに心より感謝申し上げます。皆様方の暖かいご助言やご提案をバネに、より良い高専にして行くよう、教職員一同、一層の奮励努力をする所存ですので、引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成25年12月

長岡工業高等専門学校

校長 渡 邊 和 忠

目 次

I 外部評価委員会 日程及び次第	4
II 外部評価委員名簿	6
III 学校説明	7
IV 長岡工業高等専門学校に対する評価点	8
V 長岡工業高等専門学校に対する意見及び提言等	9

資料

1 長岡工業高等専門学校外部評価実施要項	23
2 外部評価委員会 説明資料	25
3 長岡工業高等専門学校に対する評価及び意見・提言等 （アンケート）	71
4 外部評価委員会 配付資料一覧	76
5 本校出席者名簿	77

I 外部評価委員会 日程及び次第

1. 開催日時 平成25年11月7日(木) 13:00～17:00
2. 場所 長岡工業高等専門学校 第1会議室
 - 懇談
 - 施設見学
3. 次第
 - 校長挨拶
 - 外部評価委員紹介
 - 本校出席者紹介
 - 議事
 - (1) 委員長の選出について
 - (2) 長岡高専概要
 - ・沿革
 - ・教育理念・教育目標
 - ・高専教育の特色
 - ・教育体制
 - ・中期計画・年度計画
 - ・点検と評価
 - ・広報活動
 - (3) 教育活動
 - ・学科教育活動
 - ・専攻科教育活動
 - (4) 学生支援・生活支援活動
 - ・学生相談体制
 - ・メンタルヘルス
 - ・就学支援
 - ・各種大会等の支援体制
 - ・寮生活支援
 - (5) 研究活動と地域連携
 - ・研究活動状況
 - ・外部資金獲得状況
 - ・地域連携状況
 - (6) 国際交流活動
 - ・地球ラボの活動
 - ・語学学習支援策
 - ・学生海外派遣研修
 - ・地域との連携による活動
 - ・留学生の受け入れと支援
 - (7) 管理運営
 - ・管理運営体制
 - ・事務組織
 - ・財務
 - 質疑応答
 - 外部評価委員による意見交換会
 - 意見・提言
 - 校長挨拶
 - 閉会



外部評価委員会



施設見学（写真は学生寮の食堂）

Ⅱ．外部評価委員名簿

氏 名	所 属 職 名
伊藤 恒彦	長岡工業高等専門学校同窓会長
大橋 岑生	長岡市教育委員会委員長
金安 健一	長岡市立栖吉中学校長
佐藤 明	新潟日報社長岡支社長
杉山 順爾	公益財団法人にいがた産業創造機構副理事長
高橋 譲	長岡市理事（商工部長）兼新エネルギー政策監
◎ 新原 皓一	長岡技術科学大学長
丸山 智	長岡商工会議所会頭 （代理 長岡商工会議所 専務理事 山村 雅隆）
山崎 彬	長岡工業高等専門学校技術協力会長

◎ 委員長

（平成25年11月7日、五十音順、敬称略）

Ⅲ 学校説明

○ 施設見学

山田副校長（総務主事）の案内で、学生寮、地域共同テクノセンター、総合情報処理センター及び6号館（講義棟）を見学。

1. 長岡高専概要

長岡高専の概要については、本校の沿革、教育理念・教育目標、高専教育の特色、教育体制、中期計画・年度計画、点検と評価、広報活動、入学者確保に向けた活動について山田副校長（総務主事）が説明。（説明資料P25～P30）

2. 教育活動

学科教育活動については、入学者選抜方法、教育課程の新しい編成、継続的な教育改善活動、学科における教育改善の取組、情報技術教育・図書館活用、進路指導・インターンシップ、過去五年間の進路状況、優れた教員の確保について山崎副校長（教務主事）が説明。（説明資料P31～P35）

専攻科教育活動については、目標、専攻科と技術者教育プログラム（JABEE）、専攻科の特長、特別研究発表会、学会発表、長岡高専（専攻科）におけるエンジニアリングデザイン教育、修了後の進路について宮腰校長補佐（専攻科長）が説明。（説明資料P35～P38）

3. 学生支援・生活支援活動

学生支援活動については、学生・生活支援活動体制、学校生活で心配な事、学生相談室、メンタルヘルス、就学支援制度、どんな行事に興味がありますか、高専地区大会・全国大会結果、年間行事（後期）、2012体育祭・未工祭、各種大会等の支援体制、クラブ加入調査の推移、生活指導、事故・盗難件数の推移、新たな取り組みからその先へ、卒業までに身につけて欲しい事について鈴木校長補佐（学生主事）が説明。（説明資料P39～P48）

寮生活支援については、寮の目的、学生寮現員数、寮の運営・支援体制、日課表、寮の食事、主な年間行事、これまでの主な行事について阿部校長補佐（寮務主事）が説明。（説明資料P49～P54）

4. 研究活動と地域連携

研究活動と地域連携については、研究活動状況、外部資金獲得状況（学校全体）、外部資金学科別獲得状況、JST-CREST、さががけ、地域連携状況・・・窓口（地域共同テクノセンター）、各種イベントへの参加取りまとめ、地域連携・・・長岡高専技術協力会、地域連携・・・NICO（地元産業界の活性化を目指して）、地域連携・・・NAZE（NPO法人長岡産業活性化協会）について、片桐地域共同テクノセンター長が説明。（説明資料P55～P59）

5. 国際交流活動

国際交流活動については、地球ラボ活動、語学学習支援、学生海外派遣研修、海外研修事例、地域連携による活動、官連携、産連携、技術協力会、留学生支援、留学生の現状について吉野国際交流推進センター長が説明。（説明資料P60～P65）

6. 管理運営

管理運営については、管理運営体制、学内組織の見直し、事務組織、財務、課題について星事務部長が説明。（説明資料P66～P69）

Ⅳ 長岡工業高等専門学校に対する評価点

委員 評価項目	A	B	C	D	E	F	G	H	平均
1. 長岡高専概要	3	5	4	3	3	5	5	5	4.1
2. 教育活動	4	4	4	4	4	5	5	5	4.4
3. 学生支援・生活支援活動	4	5	5	4	3	5	4	5	4.4
4. 研究活動と地域連携	4	5	4	4	4	5	4	4	4.3
5. 国際交流活動	3	4	5	4	4	5	4	5	4.3
6. 管理運営	3	4	5	4	5	5	5	5	4.5
7. 総合評価	4	5	4	4	4	5	5	5	4.5



渡邊校長による挨拶

○評価点と評価基準

評価点	評価基準
5	特に優れている
4	優れている
3	普通
2	劣っている
1	特に劣っている

V 長岡工業高等専門学校に対する意見及び提言等

1. 長岡高専概要

- ① 全国の高専が高専機構の計画に基づき、各校の計画を立案している現状はどのようなのでしょうか。

これからは、各校がそれぞれの目標、計画を立案し特長を出していくことが重要と思います（オンリーワンを目指す）。

- ② 早期技術者教育を行う特性を生かした教育理念と教育目標を掲げ、人間性豊かで実践力ある創造的な技術者を育てる教育の全体構造は評価できる。

- ③ 広報活動について

出前授業が多く準備されているが、その活用を企画する各学校の理科部、理科主任に出前授業の内容項目が浸透していない現状があります。また、中学校で学習する単元との関わりや繋がりが分かる紹介が活用度を上げるうえで望まれます。

広報活動として、年一回4月に開催される、中学校理科主任会（長岡市理科センター）、市内理科部員が一堂に集まる市教研理科部会（四郎丸小学校事務局）に積極的に資料を配付してもらい、各学校理科部の先生方と関わりを持つことが、ひいては活用率を上げ、興味関心を持つ生徒の増大、受験者数の増加につながると考えます。

- ④ 教育理念、目標について

現在の理念、目標ともに適正で妥当なものと思えるが、どちらも総花的と言うことも出来そう。長岡高専の特長、特性をさらに確立し、内外にアピールしていくため、これらの中からさらに重点項目を絞って掲げていいのではないかな。

「長岡高専はこれで勝負」というような目玉が欲しい。

- ⑤ 中期計画に対する各年度目標（学校オリジナル）をアウトラインでもよいので設定してはどうでしょうか。

- ⑥ 1. 教育理念・教育目標、教育体制、点検と評価、広報活動の中で、理念と目標は妥当で有り、その他の評価されるべき全ての事項に関しても所期の目的は十分に達成されていると高く評価します。
2. しかし、今後加速する、①少子高齢化、②人口減、③内需減、④新興国の台頭、⑤グローバル化、⑥地域格差と空洞化等に関しては、10年～20年先を目指した長期の戦略を立案し、それに従って6年間の目標と計画が立案されるべきではと考えます。
3. 例えば、加速する少子高齢化に関連して長期に亘って取り組むべき点は、第1に学生の確保と思われます。この問題を緩和するためには、理系に興味を抱く学生の増大と理系女子の増大ですが、これを解決するためには、中学校のみでなく小学校との連携が不可欠で、出前授業やオープンキャンパス等の広報活動は速急に小学校まで拡大する必要があると思われます。この点に関しては留学生の増大も重要です。その割合は、10年後は10～20%の目標を明確に打ち出す必要があるように思われます。
4. また、地域の格差と空洞化を緩和するためには、地域および地域産業のグローバル化とそこで働く人々のグローバル化が必要で、地域との連携においても、人

材育成においてもこの面で長期（１０年～２０年）の戦略を立案することが必要です。

５．新しく立ち上げた広報戦略室においては、上記で記述した事項等に関する長岡高専の長期戦略の策定をお願いしたいと考えます。

- ⑦ 時代の変化に対応し、学校の諸体制・諸制度を大きく改革されている経過が良く理解できます。特に、学校活動の中で、教員と学生の距離が近いことは注目されます。学生の個性を観察し、伸ばす観点から引き続き、両者の関係性改善・強化に努めていただきたいと思います。
- ⑧ 高専機構では、教育理念及び育成すべき人材像に基づき、(1)～(7)までの項目（学習・教育到達目標では(A)～(G)）を設定し、これに到達するために「教育内容及び教育組織などの様々な改革と不断の見直しをする必要がある」とされています。これは長岡だけの課題ではないと考えますが、学生の年齢範囲が準学士までで５年、専攻科までを考慮すると７年となり、きわめて広い範囲の年齢層の学生が同じ学舎で学んでいる訳ですから、教育成果を考慮すれば、学年別に学習・教育到達目標へのアプローチが異なっても当然だと考えます。例えば１年次は(A 人間性と倫理観)に力を入れ、２年次は(B)～(C)を加え、３年次以降は(D)～(E)に力を注ぎ、４・５年次で(F 地域連携と実践力)、及び(G 継続的自己啓発)、の習得を心して指導することが重要だと考えます。共通の教科書やテキストもこれらを考慮した編纂になっていると思いますが、これに気付いていて、心した教育を行なうことが重要だと思うからです。もちろん「不断の見直し」は必須条件ですから固定的なものではありませんが、学生の年齢による知識と理解度を十分に考慮して（ただ漫然と教育課題を実行するのではなく）効率よく成果を挙げるための試行錯誤を繰り返すことは長岡高専に許されている範囲であると考えます。最近、社会や家庭での人間関係が希薄になっていて、特に２０歳程度までは、学外での経験を積まないために、一般的な大人の常識が養われないままに成長し、人間関係も未熟で行動も不可解なことが多く、利己的、排他的、衝動的な行いが（昔は、例外だといわれた行動が）普通のことのように起きることを先生方に熟知してもらうことが重要だと思うからです。

２．教育活動

- ① 今まで以上に学校の広報、PR活動を実施し、入学者の確保が重要と思います。
- ② 県内中学校長会への積極的な働きかけや「広報戦略室」の立ち上げなど、入学者の確保に向けた活動は大いに評価できる。

混合学級及び習熟度別クラス編成を検討され、基礎教育を強化する方策を是非進めていただきたい。また、一般教育学科と専門学科とのクサビ型教育体系の効果に期待したい。

- ③ 評価が、アクション項目の達成度となっており、高専が目指している学力への到達の客観的データがあると課題がはっきりと見えてくるように思います。

学問への功績（個人の研究成果）と、学生への指導（授業力）は別と考えます。分かる授業が専門性をより高めていくとの視点からの学生の授業評価があると良いと思います。

一般理数系、文系、社会等の指導目標値、それに対して指導結果としての長岡高専の生徒の力がどうなのかがよく分かりません。アクションの結果が学生にどのようにいき、ど

うなったのかの評価の視点が欲しいと思います。また、数値目標や他高専との比較ができたなら良いと思います。

各中学校で行っている主催の高校説明会では、大多数の学校は校長が出向いて保護者に説明を行っています。入試担当では軽く見ているとの保護者の評価です。

④ 1. 入学者の確保について

自己点検評価報告書に記載されているように、入学者確保に向けては中学生だけでなく、小学生へのアピールが有効と考えられる。ロボコンへの取り組みなどを小学生にも分かりやすく伝えていけば効果は大きいと考える。

(手前味噌で申し訳ありませんが、例えば、新潟日報のこども新聞「ふむふむ」でロボコンをテーマにアピールするなど試みもいいのでは…)

2. プレゼンテーション能力の向上について

機械工学科を中心にプレゼンテーション能力の向上策が実施されているが、専門家相手の研究発表の力だけでなく、専門家以外の一般の人々が聞いても分かるような説明能力を在学中からトレーニングさせて欲しい。実社会に出て企業で働くときに役立つはずで、長岡高専卒業生に対する評価も高まると考える。

⑤ 個々の活動については十分評価できると思います。

他の高専との比較（抽出でもよいので）でより改善できると思います。

⑥ 1. 教育活動に関しては、全体として中期計画。目標を著しく超えた成果を上げていると評価します。以下は、注目したい取り組みと成果、今後検討をお願いしたい事項を上げます。

2. 継続的な教育改善活動として取り上げられた活動、（１）基礎学力の定着に向けた活動；専攻科学生による数学と英語の学習支援と専門学科教員による補修、演習科目の充実、（２）学生により授業評価、保護者への公開授業と評価、教員同士の授業評価、（３）制度面での見直し；評価、進級・卒業基準の見直し、は高く評価したい。

3. 3 学年、第 4 学年と第 5 学年における英語教育強化への取り組みは、高専卒業生の弱点は英語との一般認識を払拭する為にも必要であり高く評価します。

4. インターンシップに参加する学生の着実な増加は高く評価したい。このプログラムは、高専の人材育成理念の実現の高度化に必要不可欠であり、更なる充実を期待します。

5. なお、このインターンシップは、専攻科に進学する学生全員を参加させる方向での充実をお願いしたい。

6. 第 3 学年、第 4 学年と第 5 学年における英語教育強化への取り組みは、高専卒業生の弱点は英語との一般認識を払拭する為にも必要であり高く評価したい。

7. 専攻科における人材育成においては、グローバル化に加えて、世に送り出す学生の個々の質（レベル）とリーダーシップ力の向上がと良く求められており、このような状況と社会的要を学生に自覚させる教育も大切だと思います。

⑦ 1. 高専の学生は「志が高い」という評価は、昔も今も変わらないと思います。

2. そういう学生が集まることによって、切磋琢磨し、刺激し合い、自己主体の動機付けが促進され、将来の職業人生にもプラスになって行くと考えられます。

3. また、5 年制の教育システムには、先輩が後輩の面倒を見るという、縦の人間

関係があると感じ、これは、最近の風潮である「人に無関心」ということに無縁の世界であり、良い人間関係づくりの風土が高専にはあると思いますし、このような伝統は先生方からも温かく見守って欲しいところでもあります。

- ⑧ 入学者の確保については、中学校への学校説明会に積極的に参加し、効率を考慮した曜日を選択して実施したこと、また、学生や保護者向けのメールマガジンを活用し、女子向けには「高専ガールズ」を作成してオープンキャンパスで配布するなどの地道な努力が伺える一方、PR用のテレビコマーシャルや「高専ナビ」を放映するなど、時節に適合した対策が効果を挙げていると思われる。

教育課程の編成については、従来から高専生の弱点として指摘されてきた英語力の改善に取り組み、科学英語、科学技術英語Ⅰ、Ⅱ、の単位を増設するなど長期的な取り組みが大きな成果をあげていると評価できる。最近では TOEIC-IP テストで3学科で平均 400 点をクリアーできたことは数年前に比べて隔世の感がある。国際的な人材を輩出するにはコミュニケーション能力は必須であり、第二外国語を含むこれらへの取り組みは根気強く取り組まなければならない。教員の学力増強も重要であるが、校長先生が率先して指導している国際交流事業や海外研修などの成果は特筆すべきものであると評価できる。

優れた教員の確保については、教育の質の向上と密接に関係するが、博士号取得者が一般理系及び専門学科教員の 92%以上は十分なレベルであると考えられる。専門分野に拘らずに広い知識の伝達を行なうのが高専の使命でもあることから、学外講師等についても広く卓越した人材を求めるべきである。さらに、女性の応募を歓迎する旨を公募書類に明記するなど、現在の教育、文化、研究、の根幹に関わる要素が達成できていると評価できる。今後も数値目標を掲げてこのレベルを維持して行くことを希望する。

3. 学生支援・生活支援活動

- ① 人間力の育成には学力だけでなく、課外活動等への参加が重要であると考えます。
そのためには今後とも学生への支援を充実してほしいと思います。
- ② 学園生活では、精神面の安定が最も大切である。学生相談体制やメンタルヘルスでの連携支援シートの活用など大変評価できる。
- ③ 学生の項目評価（満足度評価）がほしいと思います。各支援が学生にどのくらい受け入れられているかをアンケートし、評価に活用できると良いと考えます。
説明を伺ったり、寮等の施設を見学させてもらったりして見聞きした内容からです見ませんが、学生に応じた支援が行き届いていると感心させられました。
- ④ 寮生活支援について
寮生の地域や社会への視野を広げる意味で、新聞・雑誌等のリフレッシュコーナー等への配置を充実させていただきたい。新聞、雑誌は図書館には配置されているものの、寮生の生活の中心は、やはり寮となる。そこで社会や地域の情報を伝えるものに触れさせることは就職して実社会に出たときに役立つはずである。
相談体制、メンタルヘルス等については充実してきており、ほぼ自己点検評価報告書の通りと考える。
- ⑤ 学生進路の学校としての目標（進学、就職重視・・・等）での評価も必要と思いま

す。（学生ニーズを踏まえてですが）

- ⑥ 1. 学生への様々な支援体制を十分に検討し、それぞれにおいて大きな成果を上げている事実を高く評価します。
- 2. 専攻科生が本科の学生を支援する学習アドバイザー制度の設置や部活への外部コーチの招聘を実現した点は高く評価します。この制度は、学生への様々な支援体制が教職員の教育研究に必要な時間の不足につながる可能性を排除するためにも重要であったと判断します。
- 3. 学生支援に学生を参加させることは、学生の自立性・独立性・チャレンジ性・リーダーシップ気質を高めるにおいて重要と思われ、この面の更なる検討・拡大を期待します。
- ⑦ 1. 努力されている経過が良く分かります。
- 2. 悩みや困ったこと、メンタル不調などは、個別で多様化しておりますので、当事者である学生本人が納得して対処できるよう助言体制の充実を望みます。
- ⑧ 学生相談体制については、人員面での体制が重要となるが、今までのサポートスタッフ制から正規の教員相談員を各学科から選出し、他に看護師並びにカウンセラーを加えて 11 名体制として、事前に学生たちから情報を得る努力をしたことが評価される。これによって、学級担任との連携も密になり、問題を早期に把握できることからメンタル面での支援が可能となっている。また今年度からは、課題をもって入学してきた学生について「連携支援シート」を作成するなどの試みも始まっていて、学内に明るい雰囲気が醸成されている。

奨学金による支援体制の強化方法として、学内でのポスター告知だけでなく保護者へのメールマガジンで周知を図り、さらに東日本大震災の被災学生については直接面談すると共に授業料免除の手続きを実施している。この結果、日本学生支援機構から第一種奨学金の新規貸与者 30 名、継続 104 名、第二種奨学金の新規貸与者 9 名、継続 5 名が認められている。本校の歴史とこの地域での信用が厚いことから、貸与以外に給与としての支援を行なっている財団、企業奨学会、育英会なども多くあり、これらの機関と密接に連携をとって学生の経済面を支援している努力は高く評価できる。

ロボコンの名はテレビ中継などで有名になったが、本校のロボティクス部は地域をあげて支持を得ており、5月のジュニアサッカーオープンA部門では優勝し、6月にオランダで開催された世界大会へ出場を果たした。技術協力会と参加企業からの支援で学生は十分な経済支援のもとで大会に参加することができた。これらの支援体制は大いに評価できる。

4. 研究活動と地域連携

- ① 限られた研究費の中においては、今後とも受託研究、共同研究を積極的に実施していくことで、先生方並びに学生の能力の向上が期待されると考えます。
- ② 産学官連携に積極的に関わり、共同研究、公開講座、市民向けの「まちなかキャンパス」など、専門性を発揮していただいたことは評価できる。
- ③ 外部資金獲得、知的財産、産学連携に尽くされていることはよく説明を聞き理解しました。しかし、それらが長岡高専の目標値に対して、どこまで到達しているのかがよく分かりませんでした。～行った。では、それによりどうなったかが分かりません。

例 外部資産獲得が長岡高専の獲得目標金額に対して＋－どうだったのか。そのための経営面での課題を明確にしてあると分かりやすいと思います。

- ④ ほぼ、自己点検評価報告書の通りと考える。太陽エネルギー利用の研究は長岡高専の目玉となるように力を入れて欲しい。
- ⑤ 外部資金の目標の設定等の状況はどうなんでしょうか。成果は上げられていると思いますが、より展開していただきたいです。

NICO とも連携お願いいたします。

- ⑥
 - 1. 世界レベルで高く評価されるべき研究成果が特に太陽電池分野で生れていることを高く評価します。
 - 2. 研究成果の論文発表および口頭発表の件数は毎年着実に増加している。この成果は、先生方の日常の様々な業務が増加している現状を考えると、驚くべき成果で有り高く評価されるべきと考えます。
 - 3. 外部資金の獲得においも他高専を圧倒する成果が得られています。しかし、その獲得金額が一部の研究分野に偏り始めている傾向が見られるのが少し気になりますが、論文数の着実な増加等を考えると、この点は近い内に解決される筈と信じます。
 - 4. 長岡高専技術協力会、NICO、NAZE 等との連携による地域と連携も着実に成果を上げつつあると判断します。
- ⑦
 - 1. ものづくり企業を中心に、産業界は高専の研究活動に対する関心が高いと思います。
 - 2. 技術協力会はもとより、商工会議所を通して、産業界との連携が強まることを期待します。
- ⑧ 外部資金の獲得状況については、科研費及び補助金の獲得が共に微減となっていて、今後の対応を含めて真剣に対策を検討する必要がある。今年度は、昨年度に比較して寄付及び受託研究費が増加したことで救われている。これからのインセンティブ付与の方向として現在まで研究を積み重ねてきた雪氷冷熱エネルギーに関する研究と太陽エネルギーの利用に関する研究があるが、これは国を挙げての研究テーマでもあり、国内外に多くの競争研究機関がある。したがって、研究方向にはっきりとした差別化が図れないとコスト競争に敗れる可能性があるので、今後の方向として、開発研究、応用研究に限らず、特異的な閃きによって産業へ適用可能な方向が示唆される場合は、個々が多少小さなテーマであってもこれらを拾い集めて連携させた技術ネットワークを構築すべきである。大きなプロジェクトは周りに小型でも有効な産業技術があつてこそ構築されることを忘れてはならない。このように演繹すれば、産学連携こそが小さな技術の集まりで大きな産業を創成することに繋がるので、公益的だと言えるのである。

大学や高専で出願する特許の有効性は産業界から見ると、ほとんど意味を成さないものが多い。関西 T L O の特許のたな卸しで京都大学を含む 400 件の特許の中で将来役立つ可能性のあるものは、たった 2 件であったと報告している。採算性がゼロなので、ほとんどの特許を放棄または大学に返し、研究者と対立しないように権利を捨てる代わりに技術普及の営業に力を入れて年間 1 億円以上の収益をあげて、近い将来は 10 億円の収益が見込めるといふ。価値ある特許は企業の出願に主導権をまかせる

ことが賢明であると思われる。

5. 国際交流活動

- ① 今後、国際交流はますます盛んになる。これまでの高専の実績を踏まえ、さらなる努力に期待する。
- ② 学校を上げて取り組まれていることに敬意を表します。計画時の達成目標値に対してどうなのかの、目標達成の何%だったのが評価の視点としてあった方が分かりやすいと思います。それぞれの取組は、よく支援されていることが分かりました。
- ③ ほぼ自己点検評価報告書の通りと評価する。国際交流協会、ロータリークラブ等への連携は高く評価できるし、今後も推進してほしい。
- ④ 東北省との提携校の拡大をお願いします。
- ⑤
 1. 高専5年生のTOEICの平均点数が400点を超えたと報告がありました。この事実は様々な語学学習支援が着実に成果を上げている証拠であると判断します。
 2. 学生の海外への派遣人数が着実に伸びており高く評価できます。
 3. しかし、この派遣が東南アジア諸国に限定されているのは気になります。異文化経験を通してグローバル感覚を育ませるためには、欧米への派遣の可能性も検討する必要があると思われます。
 4. 留学生の支援、留学生と日本人学生および地域との交流を高めることを主目的とした地球ラボ活動は、大きな成果を上げており高く評価します。この活動は日本人学生の国際感覚を学ばせるためにも更に積極的に進めて頂きたいと思います。
 5. なお、学生のグローバル感覚を育むためには、先生方の海外派遣も重要と思われますので、この面での継続的な努力をお願いします。
 6. また、これらの先生を中心にして英語による講義への取組みを、他高専をリードするためにも試行する時期に来ているのではと考えます。
- ⑥ 異文化に触れることは、学生の成長にプラスであると思いますので、国内外での国際交流活動への支援を拡大していただきたいと思います。
- ⑦ 校長先生の前歴が長岡技術科学大学の国際交流担当で、しかもアジアの各大学とは深い絆をもって赴任された。国際交流は互いに利点を共有しつつ、人事交流を通して技術、産業、文化に資する成果を挙げなければならない。6月に中国の黒竜江工程学院、南海東軟信息技术职业学院、の両学院長を高専の50周年記念式典に招聘し、また両校の記念式典には招聘されるなど今後も息の長い交流が期待される。タイの泰日工業大学、マレーシアのアドテックマラッカ校、との交流協定が富山高専を含む10高専の共同連携事業に発展する等の成果は、渡辺校長先生の人脈だとはいえ、大きく評価される成果である。

現在、マレーシア政府の派遣12名、国費留学生3名、私費留学生5名の20名が在籍しているが、長岡高専で学び、日本との絆を深めた彼らは、いずれ自国で重要なリーダーとなるため、外国人留学生の受け入れ成果は、数年から数十年後に大きな見返りの花が開くのである。個人的な絆でありながら、国家の重要事項も個人の人間によって左右されるため、彼等が自国で日本との交流関係を行使できる人材に育った時は更に緊密な国家レベルの交流が促進される。非常に楽しい成果である。

留学生に対する支援については、学生数が多い大学に比べて本校の場合は格段にき

めの細かい対応を行っていることが評価できる。担当の教官が、常に学生のケアに心を配り、風習の異なる学生の悩みに対応するだけでなく、個人的に卒業後の進路や日本語学習の補習まで行っていて、異国の家族は安心して子供たちを預けている。高く評価することができる。

6. 管理運営

① 維持管理費の内、特に電気については今後とも料金は増加の方向と思われますが、科学、技術屋集団の集まりである本校で再生可能エネルギーの利用などは考えられないのでしょうか。

② 管理運営体制づくりは業務の効率化と平準化が職員の志気に関わる。各職員に業務改善策を取り組ませたことは評価できる。

事務職員や技術職員の人事交流について、長岡高専の独自性を踏まえ進めてもらえることを望む。

③ ほぼ自己点検評価報告書の通りと評価する。

④ 評価委員会の毎年開催も検討願います。

⑤ 1. 入学者対策室と広報委員会を廃止し、広報戦略室を設置して、広報活動の一元化を目指されたことを高く評価し、この組織見直しの成果が上がることを期待します。

2. 男女共同参画推進室と安心・安全環境整備会議の新設は時期を得た行動と思われる、成果の上がることを期待します。

3. 事務職員の研修および他教育機関との人事交流は成果を上げており、更に推進して頂きたいと思います。

4. 重点施設経費の措置と設備整備マスタープランの策定は、必要不可欠な事項で有り、着実な成果を期待します。

5. 先生へのインセンティブの付与は、教育研究活動の活性化に不可欠と思われ、成果を期待します。

6. 学生寮宿直業務のOB教員への一部委託および課外活動への外部コーチ採用は、先生方の本務での活躍を伸ばすためにも、必要な判断で有り、高く評価します。

⑥ 1. 管理運営体制は、しっかりされていると感じます。

2. 検討はされていると思いますが、危機管理の観点で、想定外の出来事にどう対処するのかという研究を進めていただいてはどうでしょうか。

⑦ 第二期中期計画においては、予算編成時に学長裁量経費で重点施策経費を2,000万円確保したが、その後「交付金対象事業費の一部執行保留」に対応して校長自ら裁量経費を前年度より500万円削減するとともに、各学科との細かい打ち合わせを実施し、教育・研究の質の低下が生じない範囲で計画を立て直し、効率重視の経費配分を行い、結果的に申請額3,822万円を1,512万円に縮減することができた。これは、今後も継続することから、実践的な取り組みとして高く評価できる。

長年実践してきた効率的な管理運営体制に支えられて、一般職員の質だけでなく、パート勤務の補助員の質も高く、能力のある職員には勤務形態の差別なく、作業を振り向けているため、文字通り勤務者が一体となって職務の遂行に取り組んでいることが分かる。これは限られた経費と人材の中で、最大限の能力を発揮させている例とし

て高く評価できる。

職員の能力の向上のために、学生だけでなく職員の海外研修を積極的に認めたり、博士資格取得への研究を推奨する等、開かれた高専職員の雰囲気醸成されている。

その他、見落としがちな防火・防災計画を市の消防署と連携して実施し、積極的に「安全で安心できる長岡高専」を目指している。中越地震など、幾度かの災害を経験している教訓を生かし、災害は予測できないものであるとの視点に立ち、これに備えて災害時の飲料水の契約を行うなど、危機に対する意識の高さが評価できる。

7. 総合評価

- ① 最近では学生の進路についても進学する学生が多く、このことは一般の高等学校との違いが見えにくい状況と思います。

こんな中、今後とも少子化が進む中においては、入学者の確保が最も大きな課題であり、そのためには魅力ある学校でなくてはならないと考えます。

この魅力ある学校にしていくためには、他校とは異なるもの（特長）が必要であり、そのためには、前にも述べましたとおり長岡高専として独自の目標、計画等を持ち魅力ある学校にしてほしいと思います。

- ② 自己点検評価書の作成に尽力いただき有難うございます。

今、国では教育行政改革の真ただ中にあります。多様性を尊重しつつ自主自立し、専門性に長けた実践者を育成することはますます重要となります。

長岡高専の存在（活躍）が、市内小・中学生や市民を元気づけたり、夢を描かせたりするものとなるよう願っています。

- ③ 評価では、何をどこまで到達させるのかの長岡高専の到達度計画（できるだけ数値化へ）アクションの達成率では達成の結果、どうなったのか不明確のように思います。目的達成へのアクションにより近づけた評価となるとよりよいと思います。

高専機構の目標値を受け、長岡高専の目標値が設定されていて良いと思いますが、成果目標に対する教育活動・研究活動と運営活動の評価の視点が弱く感じます。

教育活動・研究活動と運営活動が学生を育てるという成果目標に対する視点とならずに、取組項目の評価になっており、成果目標に対する評価になるとよりよいと思いました。

- ④ 長岡高専でなければの特徴を出せるものでしょうか。

新潟地域外からの入校増も大事だと思います。

- ⑤ 1. 教育、学生支援、研究、社会貢献、国際交流等の全ての評価項目に関して、それぞれの目標を十分に達成しており、全体として高く評価できると思います。
2. しかし、今後加速する、①少子高齢化、②人口減、③内需減、④新興国の台頭、⑤グローバル化、⑥地域格差と空洞化等に関しては、中期計画・目標に関する評価項目において既に記述したように、10年～20年先を見据えた長期の対策が必須と考えられます。検討をお願いします。

- ⑥ 教育理念にあります「実践力のある創造的技術者」を数多く地域産業界に送り出されていることに敬意を表し、お礼申し上げます。

- ⑦ 高専、並びに大学は地域の財産であるとともに、日本や世界の財産でもあります。私達は学外の立場で、特に産業界（企業）の人たちは、この「学」に多くを期待し大きな夢を抱いています。これに応えるために、「学」は常に地域貢献を念頭において

産業との連携を進めていただきたいと思います。教職員は、「教育を担当すれば卒業生を通して産業に貢献している」との自負があり、学生の輩出こそが全てであるとの立場を強調することが多いようです。確かにこの論は尊重しますが、識者には「教育」と「実践」という両方への参加を望みたいのです。前者の「教育」の成果は結果が数年、数十年、数百年後に現れることから、重要ですが、逆に（短期の成果がでないことを）結果が出なくても分からないという隠れ蓑になる可能性があります。後者の「実践」は欧米の先生方に多いように、自分で実践して会社を立ち上げ、技術を実証する作業です。短期に結果が出るので言い逃れはできません。自分の技術に責任を取らざるを得ないのです。

もちろん全ての先生方にこれを望んでいる訳ではありませんが、一年間に実用化に責任をもって実践する先生が1%程度はおられてもいいと思います。高専の技術協力会はこのような先生方のプロジェクトを応援したいと考えています。また、産学連携もこのような意気込みから事業を推進するのであれば、成功率が上がり「死の谷」に橋が架かるのではないのでしょうか。技術を具現化する活発な話題を求めています。

8. その他

- ① 外部評価委員会は、第2期中期計画全体を見通し、中間と終末に位置付けるようにする。そのことにより、成果と新たな課題が明確になり、第3期計画へと継続できると思われる。
- ② 参加させていただきありがとうございました。
- ③ NICO の事業活動での学生参加（社会研修）についてご提案があれば、積極的に支援したいと思っています。
- ④ 総合評価の項目において記載したように、高専が高等教育機関に分類されていることを考えると、各高専は6年間の中期目標に加えて、10年以上の長期に亘った戦略の基に活動する必要があります。

なお、外部評価委員会の在り方、開催頻度、評価委員の選出方法、評価項目等に関しては良く吟味されており、特に提言等はありません。

- ⑤ 特にありません。
- ⑥ 高専の評価と一口で言っても、ご存知のように多岐にわたっていますから、簡単なものではありません。さらに、メスを入れて改革できるものと、人脈などの関係もあって早急には改革できないものがあります。そこで重要なことは、細かいことよりも教育の思想や運営の方針などが最重要になると考えます。

このような立場から俯瞰すれば、本校は一言で素晴らしい学校であるといえます。全教員、全職員が「人類の未来をきりひらく、感性ゆたかで実践力のある創造的技術者の育成」に向かって真摯な態度で励んでいるからです。

しかし、現実には実践力を測ることは簡単な事ではありません。授業を担当していると、推定はつくのですが、卒業した学生が、この実践力を実社会でどの程度発揮するかは実は計り難いものだからです。

ここからは各論になりますが、彼らが実力を発揮するためには、就業先の環境が大きく作用するように思います。即ち、ここから先は企業にも大きな責任があるということです。

彼らが高専で身に付けた知識と人間性、倫理観、コミュニケーション能力、様々な科学と技術の専門的知識、これらを生かす応用力が社会に役立つような環境を用意するのは私たち学外の全員なのだと思います。このように考えるとき、評価する立場にあったかどうか疑わしくなります。私達こそが学習をさせていただき心から感謝しています。

資料

長岡工業高等専門学校外部評価実施要項

平成 15 年 4 月 1 日 制 定

最近改正 平成 21 年 5 月 29 日

(趣旨)

第 1 条 この要項は、長岡工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究活動等について、外部の有識者による評価、提言に基づき、本校における教育研究の改善、改革の推進を実施するに必要な事項を定めるものとする。

(委員会)

第 2 条 本校に、次の各号に掲げる事項を評価するため、外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 一 教育理念、教育目標及び将来構想に関する事
- 二 教育活動に関する事
- 三 研究活動に関する事
- 四 学生生活に関する事
- 五 社会との連携に関する事
- 六 国際交流に関する事
- 七 学校管理運営に関する事
- 八 教育研究施設設備に関する事
- 九 その他委員会が必要と認める事項

(組織)

第 3 条 委員会は、次の各号の有識者の中から組織する。

- 一 大学、高等専門学校の長
- 二 地域産業界を代表する者
- 三 県教育委員会を代表する者
- 四 地域社会を代表する市町村の長
- 五 本校卒業生を代表する者
- 六 その他高等専門学校に関し、広く、かつ、高い見識を有する者

(委員の委嘱)

第 4 条 前条に掲げた委員は、校長が委嘱する。

2 委員の任期は、1 年とし、再任は妨げない。

(委員長)

第 5 条 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

(実施方法)

第 6 条 評価は、資料による調査、本校で実施するヒアリング及び実地調査等により行う。

(資料)

第 7 条 評価に必要な資料は、長岡工業高等専門学校自己点検・評価検討委員会が作成する。

(報告)

第 8 条 委員会は、評価の結果を校長に報告する。

(改善)

第9条 校長は、前条の報告に基づき、改善のための諸方策を講じるものとする。

(事務)

第10条 評価に関する事務は、総務課が行う。

(雑則)

第11条 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、別に定める。

附 則

この要項は、平成15年4月1日から実施する。

附 則（平成21年5月29日）

この要項は、平成21年5月29日から実施し、平成21年4月1日から適用する。

長岡高専活動報告 (平成25年度外部評価委員会)

- I 長岡高専概要:総務主事
- II 教育活動:教務主事、専攻科長
- III 学生支援・生活支援活動:学生主事、寮務主事
- IV 研究活動と地域連携:地域共同テクノセンター長
- V 国際交流活動:国際交流推進センター長
- VI 管理運営:事務部長

独立行政法人国立高等専門学校機構

長岡工業高等専門学校



I 長岡高専概要

1.1 沿革

- 昭和36年4月 国立長岡工業短期大学設置(機械2、電気、工業化学の3学科4学級)
- 昭和37年4月 国立長岡工業高等専門学校設置
- 昭和43年4月 土木工学科増設(4学科5学級)
- 平成 2年4月 機械工学科1学級を電子制御工学科へ改組(5学科5学級)
- 平成 6年4月 工業化学科を物質工学科へ改組
- 平成 7年4月 土木工学科を環境都市工学科へ改組
- 平成12年4月 専攻科設置(電子機械システム、物質、環境都市の3専攻)
- 平成16年4月 独立行政法人化:「国立高等専門学校機構」
電気工学科を電気電子システム工学科へ改組
- 平成18年4月 日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定
- 平成20年3月 大学評価・学位授与機構による高等専門学校機関別認証評価の認証
- 平成23年6月 創立50周年

これまでの卒業生・修了生は8,000人超

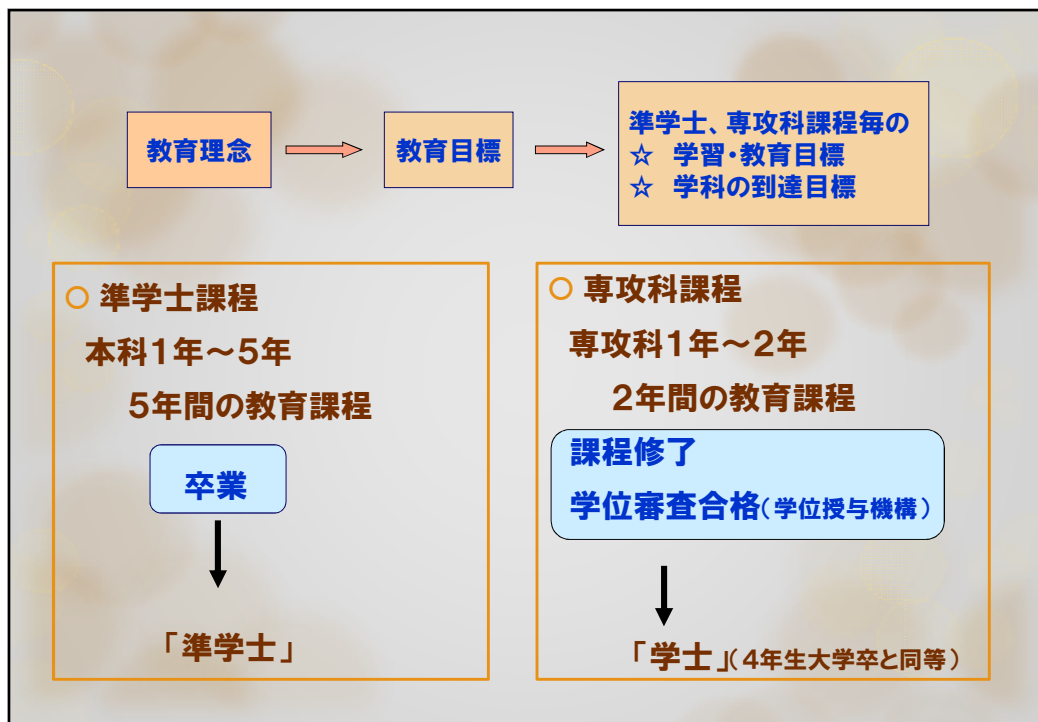
1.2 教育理念・教育目標

教育理念

人類の未来をきりひらく、
感性ゆたかで実践力のある
創造的技術者の育成

教育目標(要約)

- A. 豊かな人間性と倫理観を有する技術者
- B. コミュニケーション能力と国際的視野を持つ技術者
- C. 科学技術の基礎を身につけ、創造力のある技術者
- D. 工学の知識とものづくりスキル、情報技術を駆使できる技術者
- E. 多面的思考力を有し、課題解決力、技術開発力のある技術者
- F. 地域と連携し、時代の要求に応えられる実践力ある技術者
- G. 継続的に自己啓発できる技術者



1.3 高専教育の特色

●早期専門教育

感受性の高い時期にものの考え方→一生の財産
教員(博士)→基礎、専門、研究のおもしろさ

●人間形成教育

多彩な活動(〇〇コン、インターンシップ、国際体験)
学生寮での人間教育、後援会との連携
学生の自主判断、教職員と学生の距離の近さ

●進学・就職に有利

卒業生の7割以上が国立大、専攻科へ現役で進学
企業の求人倍率は全学科平均20倍以上

●保護者及び卒業生の高満足度

親子あるいは兄弟姉妹で高専進学者多数

1.4 教育体制

○ 学生現員数(H25.4.1現在)

(各学科総定員200名)

準 学 士 課 程	学年	機械工学科	電気電子システム工学科	電子制御工学科	物質工学科	環境都市工学科	計 (総定員1000名)
	1	41	42 (2)	43 (2)	42 (17)	41 (9)	209 (30)
	2	43	41 (2)	43 (3)	40 (16)	40 (12)	207 (33)
	3	41 (1)	46 (2)	41 (2)	46 (13)	44 (8)	218 (26)
	4	41	37 (2)	40 (3)	41 (18)	47 (5)	206 (28)
	5	43	37 (3)	41 (2)	44 (14)	39 (13)	204 (32)
	合計	209 (1)	203 (11)	208 (12)	213 (78)	211 (47)	1044 (149)
	充足率	104.5%	101.5%	104.0%	106.5%	105.5%	104.4%

専 攻 科 課 程	学年	電子機械システム 工学専攻(総定員24名)	物質工学専攻 (総定員8名)	環境都市工学専攻 (総定員8名)	計 (総定員 40名)
	1	21	9 (4)	8 (2)	38 (6)
	2	15	4	9 (1)	28 (1)
	合計	36	13 (4)	17 (3)	66 (7)
	充足率	150.0%	162.5%	212.5%	165.0%

()内女子数

○ 教職員数(H25.4.1現在)

職名	校長	教授	准教授	講師	助教	小計	事務・技術系職員	合計
現員	1 (1)	29 (26)	40 (33) [2]	1 (0)	5 (4) [3]	76 (64) [5]	43 [技術系2]	119

()内博士学位取得者数
[]内女性数

○ 組織
後述(VI管理運営で)

1.5 中期計画・年度計画

中期計画

文部科学省の中期目標、

国立高専機構の中期計画に沿って高専ごとに策定

第1期:平成16年度～平成20年度(5年間)

第2期:平成21年度～平成25年度(5年間)

年度計画

中期計画を基に年度ごとに策定

平成25年度年度計画の重点項目

- (1) 入学志願者減少への対策→広報戦略の立て直し
- (2) 理数基礎学力の定着
- (3) グローバル化対応教育の強化→科学技術英語の創設
- (4) 学生の視野の拡大→

学科・専攻科横断型一貫コース制の導入(平成25年度より)

混合学級の導入(平成26年度より)

1.6 点検と評価

The flowchart illustrates the school inspection and evaluation process, centered around a PDCA cycle. The cycle consists of four stages: Plan (blue), Do (yellow), Check (yellow), and Action (blue), connected by green arrows in a clockwise direction. The process flow is as follows:

- Plan:** 中期計画・年度計画の作成 (Creation of medium-term and annual plans).
- Do:** 校長の承認 (Principal's approval) and 各部署で計画の実践 (Implementation of plans in each department).
- Check:** 各種データ、アンケートに基づき、各部署で点検評価 (Inspection and evaluation in each department based on various data and questionnaires).
- Action:** 担当主事による点検評価内容の検討と分析 (Discussion and analysis of inspection and evaluation content by the responsible staff officer).

External interactions and reporting are shown on the left side:

- 外部評価委員会 (External Evaluation Committee):** 意見伺い (Request for opinions) and 改善勧告 (Improvement recommendations).
- 校長 (Principal):** 改善指示 (Improvement instructions).
- 自己点検評価報告書の承認と公開 (Approval and public release of self-inspection and evaluation reports):** This step follows the Action stage and leads back to the Plan stage.

```
graph TD
    Plan[Plan] --> Do[Do]
    Do --> Check[Check]
    Check --> Action[Action]
    Action --> Plan

    Plan --> PlanBox[中期計画・年度計画の作成]
    PlanBox --> DoBox[校長の承認]
    DoBox --> DoBox2[各部署で計画の実践]
    DoBox2 --> CheckBox[各種データ、アンケートに基づき、各部署で点検評価]
    CheckBox --> ActionBox[担当主事による点検評価内容の検討と分析]
    ActionBox --> ReportBox[自己点検評価報告書の策定]
    ReportBox --> ReportBox2[自己点検評価報告書の承認と公開]
    ReportBox2 --> PlanBox

    ReportBox2 --> EC[外部評価委員会]
    EC -- 意見伺い --> EC
    EC -- 改善勧告 --> EC
    EC --> Principal[校長]
    Principal -- 改善指示 --> PlanBox
```

1.7 広報活動

「**広報戦略室**」の立ち上げ

目的：広報と中学生向けPR活動の連携
戦略的広報活動の展開

活動内容：情報入手と分析
広報戦略の立案
オープンキャンパスの改善
ホームページの充実
中学生向けHP（製作中）
後援会との連携

入学者確保に向けた活動

活動	対象	H23	H24	H25
オープンキャンパス	中学生・保護者・教諭	572	550	675
入試(進学)説明会	中学生・保護者・教諭	393	383	
中学校等訪問学校数	教諭	172	156	141
中学校主催学校説明会参加校数	中学生・保護者・教諭	31	43	36
体験学習実施数	中学生・小学生	44	46	
入試倍率		1.59	1.47	

- まちなかキャンパス講座への協力
- 科学の祭典への積極的出展
- 高専空白県での進学フェア出展
- 県内中学校長会との連携
- 中学生向けメールマガジンの発行
- 女子学生獲得に向けた取組の実施
- TVCMと本校紹介番組の放映
- 在校生を通じた本校紹介

Ⅱ 教育に関する事項

学科教育活動

- 入学者選抜方法
- 教育課程改善の重点事項
- 継続的な教育改善活動, 学科毎の取組
- 教育施設(総合情報処理センター, 図書館)
- 進路指導, インターンシップ, 進路
- 教員採用, 育成と支援



1

入学者選抜方法

対象学年	選抜区分	実施方法
第1学年 入学者選抜	推薦による選抜	調査書・面接
	学力による選抜	調査書・5教科(理科, 英語, 数学, 国語, 社会)
	帰国子女特別選抜	調査書・4教科(理科, 英語, 数学, 国語)・面接
第3学年 編入学者選抜	私費外国人留学生 特別選抜	高専機構第3学年編入学試験(日本留学試験, TOEIC/TOEFL, 面接)
第4学年 編入学者選抜	一般選抜	調査書・3教科(数学, 英語, 専門)・面接
	帰国子女特別選抜	調査書・2教科(数学, 英語)・面接

教育活動(本科) No.2

教育課程の新しい編成

- 英語教育の強化
 - 第3学年1単位, 第4学年2単位の増
 - 専門科目「科学技術英語Ⅰ, Ⅱ」(4,5学年)を全学科に整備
- 混合学級の導入(平成26年度)
 - 第1学年だけ実施, 学生の交流の幅を広げる
- 学科・専攻科横断型の教育プログラム
 - 特色ある研究分野を中心とした教育プログラム
 - 学科・専攻科の枠を越えた学習と複数教員による研究指導
- モデルコアカリキュラム(高専全体の取組)への対応
 - 科目内容の点検と見直し

教育活動(本科) No.3

継続的な教育改善活動

- 基礎学力の定着に向けた活動
 - TA(専攻科生等)補習(数学, 英語)週1~2時間, 放課後実施
図書館夜間開館時の補習(専門科目)
 - 専門学科教員による学習アドバイザー・補習
 - 演習科目の充実(全学科の低学年に導入)
- 授業評価・学校評価
 - 学生による授業評価アンケート(授業内容, 授業方法)
 - 保護者アンケート(学習環境, 支援)→授業公開(平成22年~)
 - 学内での授業公開(教員同士の授業見学)
- 制度面での見直し
 - 改善策の検討(評価, 進級・卒業基準の見直し)

教育活動(本科) No.4

学科における教育改善の取組

- **一般教育科**
基礎学力定着:補習, 小テスト, 演習課題の充実, 多読(英語)
- **機械工学科**
基礎学力定着:機械工学基礎演習(1年), 初等力学(3年),
レポート作成指導, プレゼンテーション能力向上, 実験実習内容の検討
- **電気電子システム工学科**
基礎学力定着:電気電子理論演習 I・II の内容見直し,
科目相互の連携等
- **電子制御工学科**
基礎学力定着:専門基礎科目の教育内容・方法の改善,
学習意欲向上のための方策, 成績不振者への対応強化
- **物質工学科**
学生実験, 卒業研究の高度化:外部機関(長岡技科大, 地元企業等)
との連携
- **環境都市工学科**
基礎科目の改善:学科カリキュラムの見直し(低学年の基礎科目の整備),
実験実習の内容改善(シラバス会議)

教育活動(本科) No.5

情報技術教育・図書館活用

- **総合情報処理センター**
 - 施設の整備
教育用計算機システム(4年更新),
ネットワーク・サーバ整備・管理, 学内無線LANの運用
(端末室3室, CELLラボ等), セキュリティ管理
 - 教育研究支援
マイクロソフト製品の包括ライセンス契約(機構)
無線LANの学内利用(学生に開放)
- **図書館**
 - 長岡技科大・高専コンソーシアム(電子ジャーナル等)
 - 英語授業との連携:多読用図書の実践(6,000冊)
 - 利用者研修:JDream講習会, 情報探索講習会

教育活動(本科) No.6

進路指導・インターンシップ

● キャリア教育(進路指導等)

- 低学年では、特別活動での講話
- 工場見学(3年生 9月), 見学旅行(4年生 9月, 工場見学)
- 進路ガイダンス(4年生 1月)
- 企業ガイダンス(技術協力会が協力 1月, 2月)
- 学科毎で就職・進学に対応(学科長, クラス担任等)

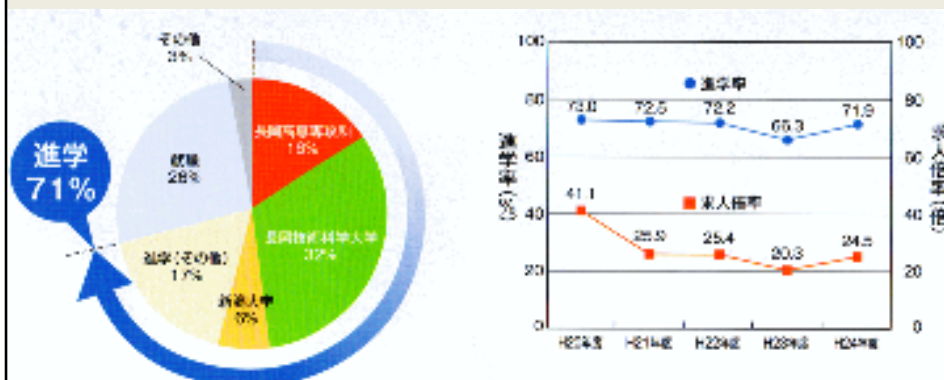
● インターンシップ

- 受講生増に向けた対策: 学外での多様な実習形態を取り入れる

年度(平成)	20	21	22	23	24	25
企業実習(学科 4年生)	47	39	64	91	91	117
学外実習(専攻科1年生)	35	31	36	26	28	38
						必修

教育活動(本科) No.7

過去五年間の進路状況



教育活動(本科) No.8

優れた教員の確保

- **教員採用は公募制**

教育, 研究, 学生支援, 地域連携のバランス

一般: 2名(国語, 英語), 制御: 1名 【平成24年度】

- **選考委員会の設置**

教務主事, 当該学科および他学科の教授・准教授

- **多様な経歴**

高専・大学, 高校, 民間企業, 研究所, 海外での経験
(多様な勤務経験者 平成24年度 65.8%)

- **女性教員比率向上に向けた職場環境の改善**

ハード面・ソフト面ともほぼ整備されている

- **育成と支援**

新任教員への支援: メンター制の導入,
機構等の研修制度の活用

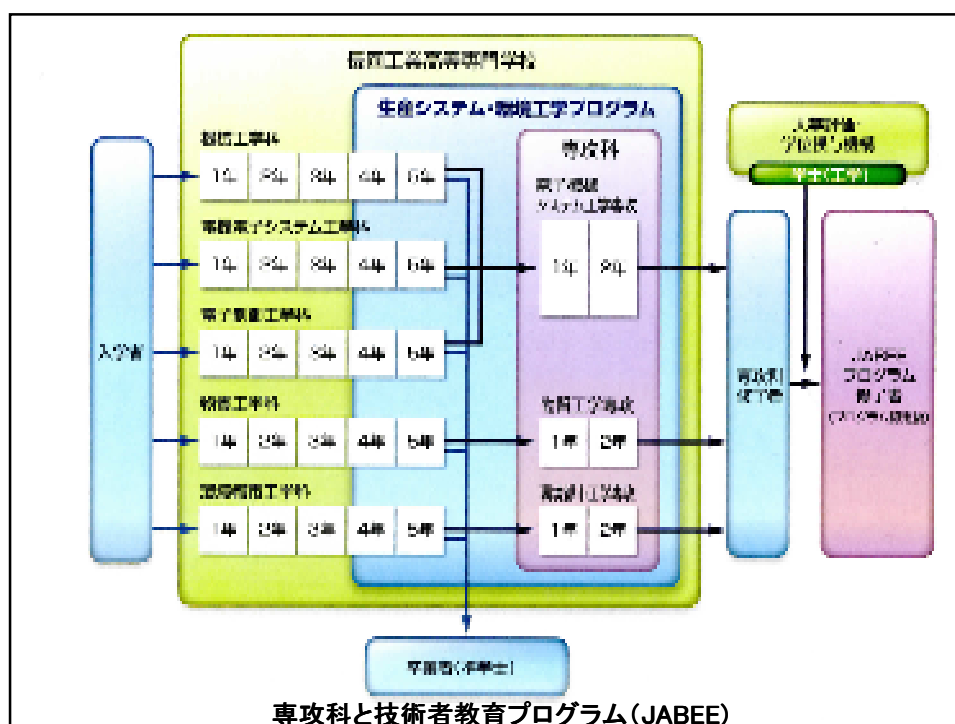
教育活動(本科) No.9

専攻科教育活動

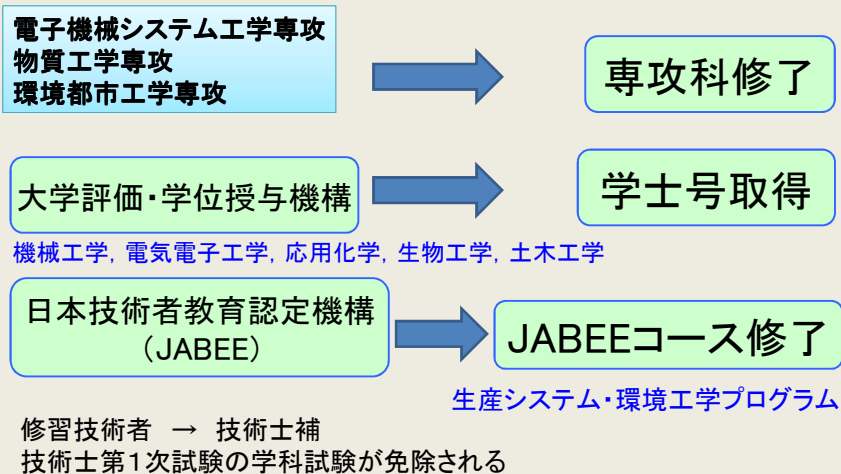
- **目標**

高専本科に続き, より高度な教育・研究を行い, 研究開発能力, 創造能力を持った先端技術に対応できる実践的技術者の養成

2年間の履修(大学3, 4年相当)



専攻科の特長

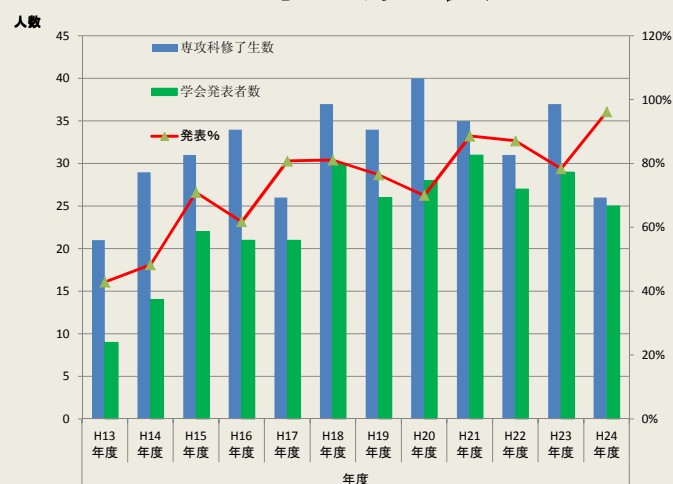


特別研究発表会

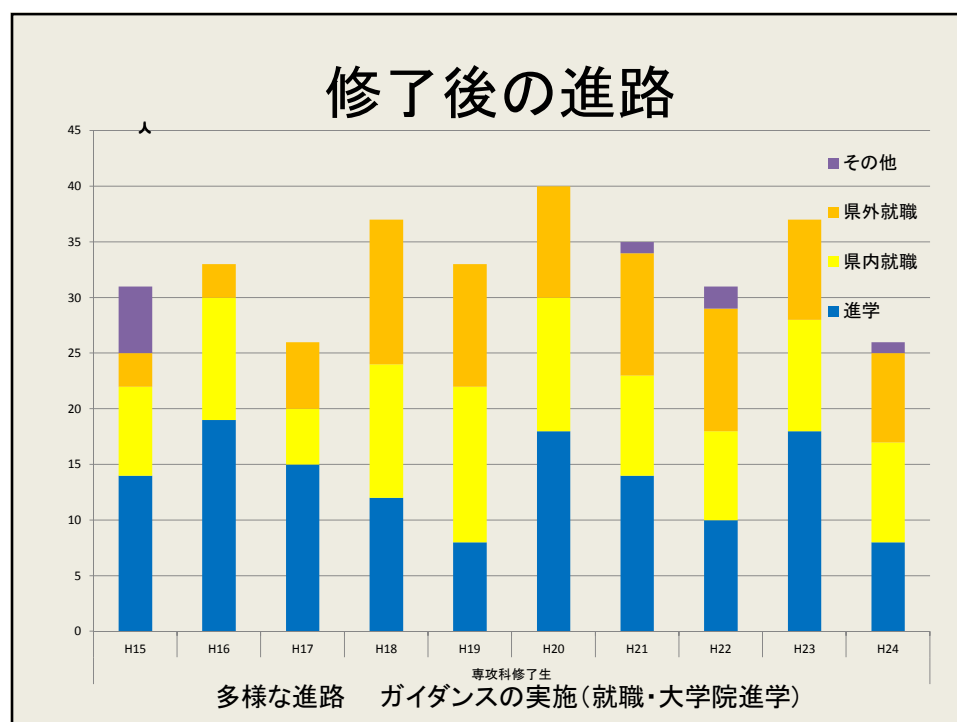
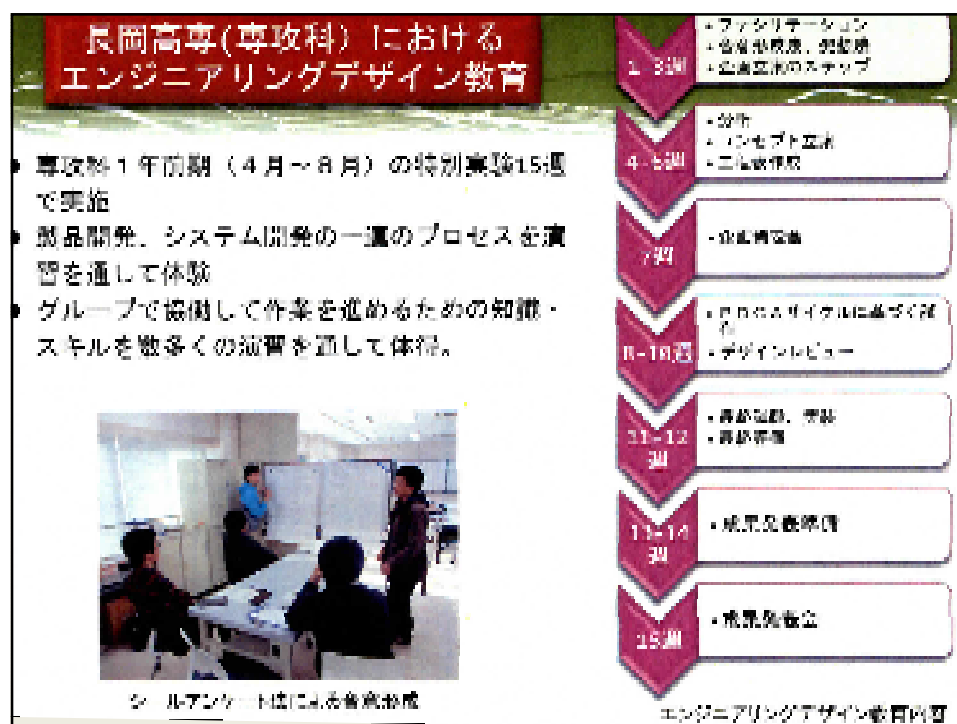
- 専攻科での研究の集大成
- 参加者 教員, 技術協力会会員企業等
- 専攻科1年生の中間発表会 同日開催
- 会場 昨年度より3専攻同一会場で開催
(今年度アオーレ長岡)



学会発表



高い専門性により学会発表多数(H24年度は修了生の96%が発表)



Ⅲ. 学生支援・生活支援について

1. 学生相談体制
2. メンタルヘルス
3. 就学支援
4. 各種大会等の支援体制
5. 寮生活支援

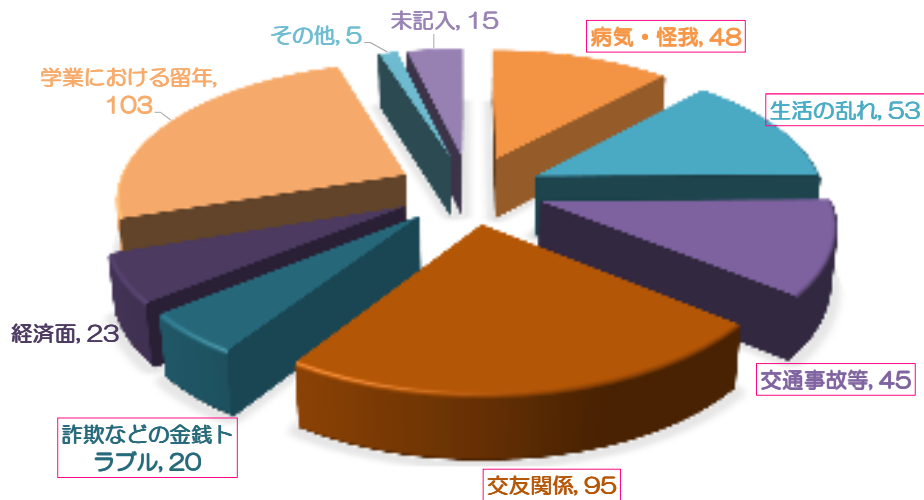


学生・生活支援活動体制



学校生活で 心配 な事 (複数回答3つ)

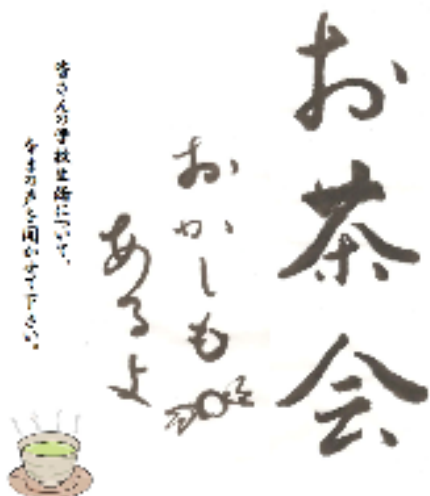
H25入学保護者アンケート



Ⅲ-1. 学生相談体制

「学生相談室」

- ◇ 室長(1)-教員相談員(6:各科)
-看護師(1)-非常勤カウンセラー(2)
- ❖ 学校生活上の悩み：
交友関係、課外活動、学習、経済的問題
- ❖ 心の健康問題：
心身の不調、気になる性格や行動
- ❖ 修学上の悩み：
進路、学業不振、進路変更
- 障害学生支援研修会、学生相談・メンタルヘルス研修会、教育カウンセラー養成講座、全国高専メンタルヘルス研修会 に参加（対応方法、知見、経験の研鑽）

<table border="1"> <tr> <td>年度</td> </tr> <tr> <td>相談件数(延)</td> </tr> </table>	年度	相談件数(延)	 開催日：9/30(月),10/1(水),10/31(木),11/10(月), 12/05(火),12/20(金),1/20(月),2/03(月),2/21(金) 時間・場所：16:15～17:15・第3館(2号館1階) 主催：学生相談室 学生相談委員：猪平(一級)、小川(一級)、宮橋(機械)、	<table border="1"> <tr> <td>24</td> </tr> <tr> <td>259(493)</td> </tr> </table>	24	259(493)
年度						
相談件数(延)						
24						
259(493)						

Ⅲ-2. メンタルヘルス

➤ 各種講演会の実施：

薬物、AIDS、自転車安全教育、禁煙教育、命の大切さ、高校生対象消費生活者教育、高校生対象メンタルヘルスガイダンス、就職ガイダンス、キャリアセミナー、AED講習会

☆ 連携支援シート：

H25入学生から導入ー中学校に特別支援の必要な生徒がいる場合、具体的な情報提供を呼びかけ、本校入学時からの素早い対応体制の構築



就学支援制度

学生支援制度

経済的理由により就学困難な学生に対し、学費等を支援する制度を次のとおり設けています。
(申請資格等の詳細については、学生課学生支援担当へお問い合わせください。)

- 入学金免除／本人の申請により、選考の上、入学金の全額又は半額を免除します。
- 入学金徴収猶予／本人の申請により、選考の上、入学金の納付期限を延長します。
- 奨学金制度(月額)

【日本学生支援機構】

学 年	一 種 (自宅通学)	一 種 (自宅外通学)	二 種	受給 者数
1～3学年	21,000円	22,500円		138
	10,000円			
4・5学年	45,000円	51,000円	30,000円 50,000円 80,000円	11
専 攻 科	30,000円		100,000円 120,000円 の中から選択	

【その他の奨学金】(一例)

名 称	対象者	給付・貸与金額	受給者数
敦井奨学会	1～5学年	25,000～50,000円	19
関育英奨学会	2学年	20,000～30,000円	0
ユニオンツール 育英奨学会	全学生	50,000円(1年間)	16
新潟県高校奨学生	1～5学年	18,000円・23,000円	2
丸山育英会	1～3学年	10,000円	0

※支援額は平成25年度、受給者数は平成24年度のデータに基づきます。

授業料免除(全額＋半額)

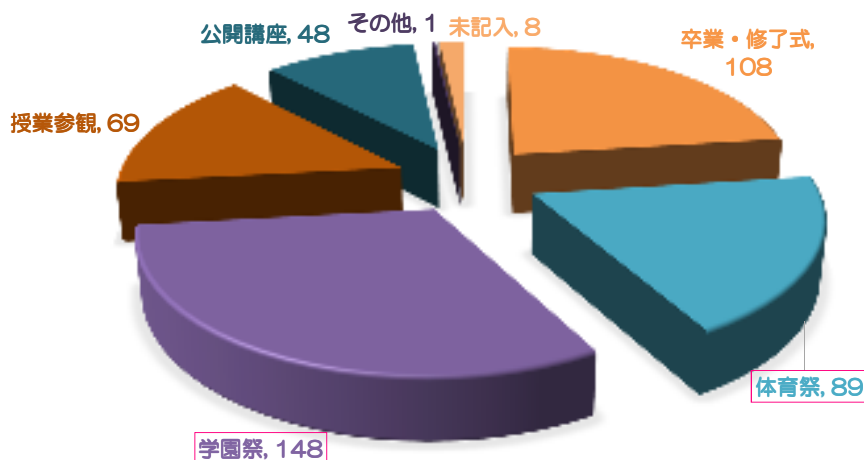
年度	22	23	24
人数	35	41	51
H22より、就学支援金制度により、基本4年生以上			

各種奨学金

年度	22	23	24
日本学生支 援機構	47	37	40
その他 新規(継続)	23(37)	32(36)	16(33)

どんな行事に興味がありますか？(複数回答)

H25入学保護者アンケート



高専地区大会・全国大会結果

1. バドミントン部：女子団体・ダブルス優勝（仙台）
→ 女子ダブルス3位入賞！
 2. バレーボール部：準優勝 → 予選リーグ惜敗
 3. 柔道部：団体準優勝、種目別（4）→ 予選リーグ惜敗
 4. 水泳部：総合優勝、種目別男子（5）、女子（4）
→ 女子200フリーリレー3位！
→ 男子400m自由形7位、男子100m平泳ぎ7位入賞！
 5. 陸上部：種目別（3）→ 男子三段跳び3位入賞！
- ★バスケットボール部女子高専地区大会参加-初戦突破！

★文化発表会（8月30・31日）無事終了しました！
文化発表会実行責任者：3年生女子

年間行事（後期）

後期	10 October	11 November	12 December	1 January	2 February	3 March
	17日（木）	2-3日（土・日）	2-3日（土・日）	15-17日	15-17日	19日（水）
	体育祭	東北新1学級別 4学年新大生説明 1-2学年新入生 4年生説明	クラスマッチ 各学年練習	各学科 研究発表大会 1学年新入生説明 1学年新入生説明 卒業研究発表会	学年文化祭 1学年新入生説明	卒業式・修了式 新入生説明
						

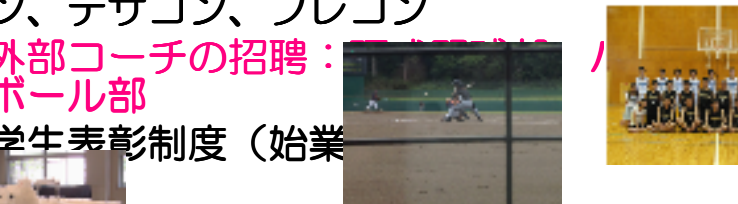
2012 体育祭・木工祭

III-3. 各種大会等の支援体制

- 新入生クラブ全員加入制度（H23～継続）
体育系クラブ（18部、3同好会）
文化系クラブ（12部、4同好会）
- 関東信越地区高専体育大会、全国高専体育大会、高校野球連盟、種目別協会主催大会
- 関東信越地区文化発表会、ロボコン、プロコン、デザコン、ブレコン

◇ 外部コーチの招聘：
バレー部

◇ 学生表彰制度（始業



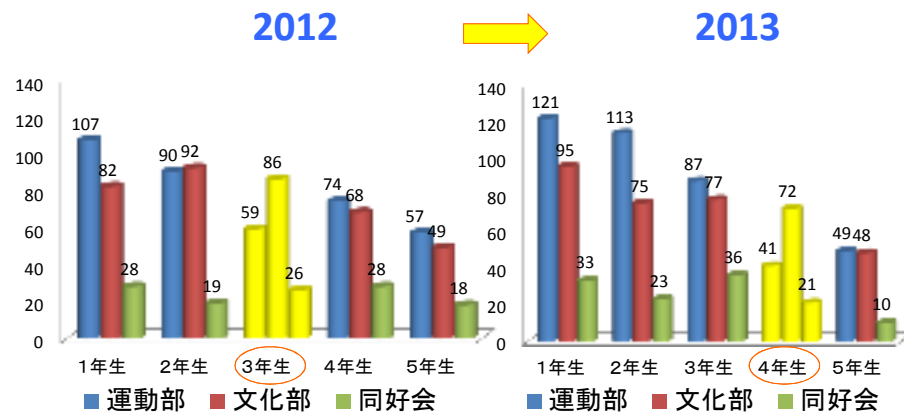
- 新入生クラブ全員加入制度（H23～継続）
体育系クラブ（18部、3同好会）
文化系クラブ（12部、4同好会）
- 関東信越地区高専体育大会、全国高専体育大会、高校野球連盟、種目別協会主催大会
- 関東信越地区文化発表会、ロボコン、プロコン、デザコン、プレコン

外部コーチの招聘： ボール部

✧ 学生表彰制度（始業



クラブ加入調査の推移



☆4年生以上なら、社会人・大学等の大会に参加するなど生涯スポーツとして継続！

13

生活指導

- 安全面：日本スポーツ振興センター共済に全学生加入

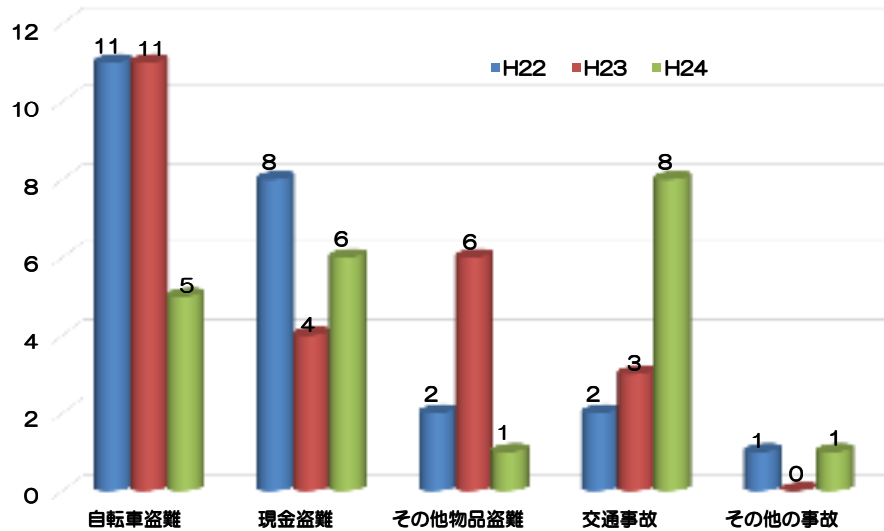


（始業式時、長岡警察署）
指導（許可証、ステッカー
賞責任保険等への加入推奨
適宜巡回指導

- ❖ 禁煙・飲酒など：適宜巡回
- ❖ 懲戒：学生の不祥事発生時



事故・盗難件数の推移



新たな取り組みからその先へ

学生指導：

- ✓ショートホームルーム(SHR)：定着
担任による指導、問題件数の減少傾向
- ✓「美シュランガイド」の創設：定着
マナー感がでてきた→言われて行動でなく、
自ら行動（学生会・校内クリーン作戦へ展開）
- ✓校歌の浸透：定着
入学式、始業式、卒・修了式での吹奏楽部による
生演奏を実施、SHR前の一斉放送

新たな 取り組み から その先へ

学生相談室：

- ✓ 教員スタッフの増員：効果はある
負担軽減と情報の共有
さらに、一般教員へのフィードバック
- ✓ クラス担任との連携強化：Q-Uアンケート
担任によるクラスの把握、適切な指導
- ✓ 「待つ」→「早期発見、対応」：実施
連携支援シートによる早期対応

新たな 取り組み から その先へ

学生会行事への支援：

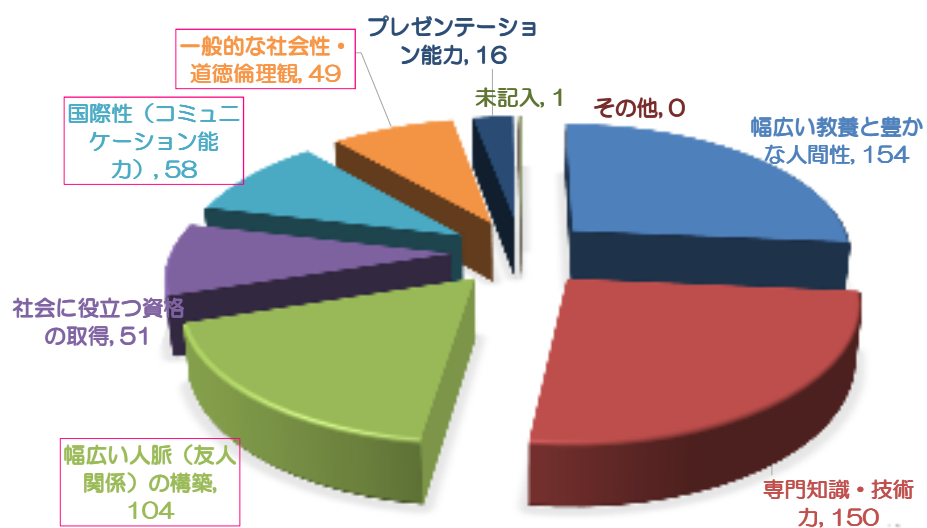
- ✓ クラス担任による指導
学生会の自立（上から下）
教職員 (Red Bombers) の
- ✓ 学生会行事への参加率
学生会による参加して楽



文化競技会とも向上
学科発表の創設：定着
行事
個性化（ダンス、バス
ーボール+α）

卒業までに 身につけて 欲しい事 (複数回答3つ)

保護者アンケート



Ⅲ-5. 寮生活支援

寮の目的

寮は 生活の場 であるとともに
教育の場 である。

集団生活を通して、
人間形成 を図る。



寮目標（5項目の柱）

- 一．寮生は勉学に励むべし
- 一．寮生は心身共に鍛えるべし
- 一．寮生は自主独立の精神を養うべし
- 一．寮生は寮生相互の親睦をはかるべし
- 一．寮生は常に信義を重んじ礼儀を正しくすべし

23

学生寮現員数 (H25.9.1現在)

- ・ 高志寮 男子学生 270名
- ・ 清花寮 女子学生 39名

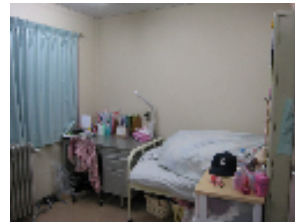
合 計 309名
(留学生 16名(内数))



三人部屋

寮友会 (寮生による自治組織)

- ・ 寮長、館長、階長、各委員長、他
- ・ 新入寮生への指導 (指導寮生等)
- ・ 各種行事の開催
(寮祭、避難訓練、草取り等)



一人部屋

24

寮の運営・支援体制

- ・ 教員 7名
- ・ 寮務担当職員 3名
- ・ 寮母 2名

寮内に常時スタッフがいます

- ・ 平日昼：寮務担当職員
- ・ 休日昼：警備員1名が日直
- ・ 夜 間：教員、警備員各1名 (計2名) が宿直
- ・ 平日夕：寮母、17:00～21:00 (1名ずつ)

学生相談室 (学生支援)

- ・ カウンセラー、看護師、相談員
- ・ 新入寮生面談 (4月中旬～下旬)

2
5

日課表

	平 日	休 業 日
起床	7:00	7:00
朝食	7:30～8:30	7:30～9:00
登校	8:30	
昼食	11:30～12:45	12:00～13:00
夕食	18:00～20:00	
入浴	16:30～22:00	
点呼	22:30	
学習・静粛	22:30～24:00	
消灯	24:00	

26

寮の食事

栄養士による献立

朝食：2種類の献立から選択

昼食：3種類の献立から選択

夕食：2種類の献立から選択

月に1度の特別メニュー

（イタリアンフェア、カレーフェアなど）

寮生の食事満足度（5点満点）

平成24年度	男女平均 3.6
平成23年度	男女平均 3.2
平成22年度	男女平均 3.3



食 堂



夕食の例



イタリアンフェア

27

主な年間行事

4月	5日	入寮式・新入寮生歓迎夕食会
	8日	始業式
	25日	寮生総会 対面式（自己紹介）
5月	8日	新入寮生歓迎球技大会
	16日	防災避難訓練
6月	21～23日	寮祭
8月	6日	寮生総会
9月	18～19日	寮生保護者会
1月	11～12日	冬の寮祭



これまでの主な行事①入寮式(4月5日)



新入寮生の入寮を許可する入寮式

これまでの主な行事②新入寮生歓迎会(4月5日)



寮友会主催の新入寮生歓迎夕食会

30

これまでの主な行事③寮総会と対面式(4月25日)



寮友会役員と指導寮生と新入寮生の自己紹介

31

これまでの主な行事④ 早朝避難訓練(5月16日)



全員が無事避難、消火器・避難装置の使用訓練

32

これまでの主な行事⑤

夏の寮祭
(6月21~23日)

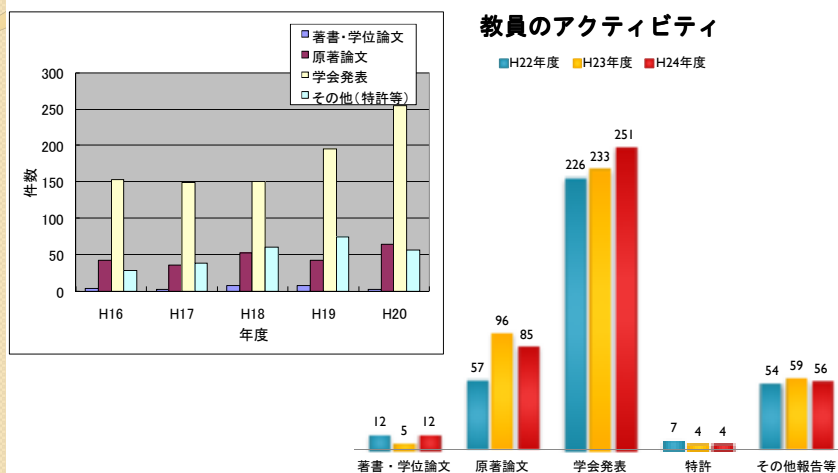


寮祭の演劇，露店の様子
寮生同士の親睦を深めた

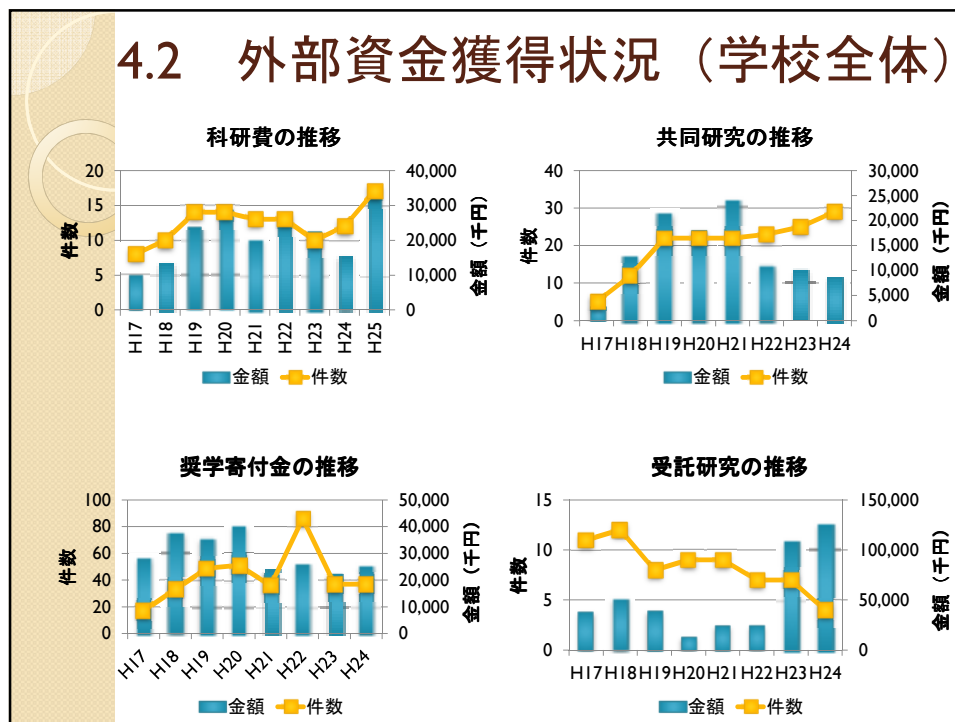
IV 研究活動と地域連携

- ◆研究活動状況
- ◆外部資金獲得状況
- ◆地域連携状況

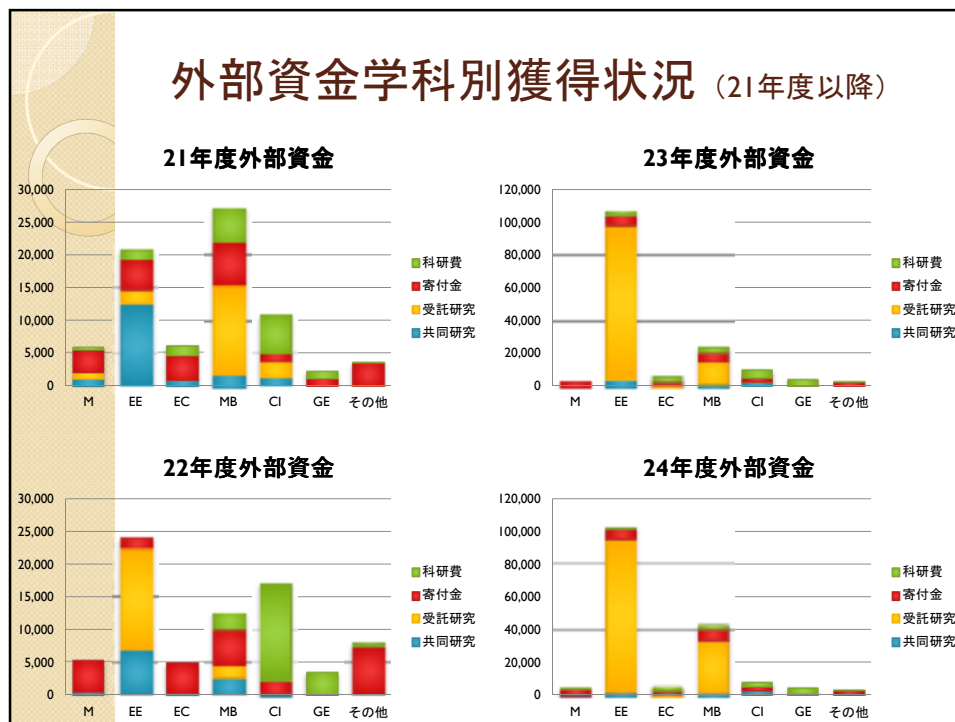
4.1 研究活動状況 ・ 教員の研究活動



4.2 外部資金獲得状況（学校全体）



外部資金学科別獲得状況（21年度以降）



JST-CREST, さきがけ

- 太陽電池の研究開発
 - 平成22年度 EE:片桐 CREST
 - 平成23年度 MB:荒木 さきがけ 採択
 - 従来のNEDO受託研究により導入済みの機器とJSTによる新規導入の機器を有機的にリンクさせるため、テクノセンター内にプロジェクト室2を整備
 - 平成24年度補正予算による学科横断型プロジェクト(太陽電池)への対応のため、テクノセンター長室をプロジェクト推進室へと改修

4.2 地域連携状況 . . .

窓口(地域共同テクノセンター)

平成24年度まちなかキャンパス長岡 (全22回)

- | | |
|------------------------------------|------------------|
| 1. 大人のための科学実験 料理と科学の親密な関係 | MB:鈴木秋弘 |
| 2. 身近にある曲線の不思議 | GE:山田 章 |
| 3. 身近な生物ミミズのパワー | MB:赤澤真一 |
| 4. 未知とロマンの氷の大陸・難局 | 佐藤和秀 名誉教授 |
| 5. おいしい食べ物サイエンス パンの不思議 | MB:菅原正義 |
| 6. 静かな働き者・静電気は、こんなにスゴイ! | EE:床井良徳 |
| 7. 昆虫ロボットを作って対戦だ! | M:山田隆一 |
| 8. 熱と空気のおもしろ実験〜ちょっと不思議な現象の体験と簡単工作〜 | M:河田剛毅 |
| 9. ウルトラ・ウィンド〜空気砲のパワーを体験〜 | Ci:塩野計司 |
| 10. おいしい食べ物サイエンス ミルクの謎 | MB:菅原正義 |
| 11. 数学で解き明かす、偶然・必然・美しさの謎 (全5回) | GE:田原嘉宏 |
| 12. 自分で作った天体望遠鏡で宇宙をのぞこう! (全3回) | EE:長部恵一 |
| 13. 親子で歩こう! ながおかまちなか歴史散歩 (全3回) | GE:田中 聡 |
| 14. 放射線と共存する社会での生き方 | M:吉野正信、山口 肇 名誉教授 |

各種イベントへの参加取りまとめ

- ◆テクノセンター基盤測定室 説明会(4/24)
- ◆全国高専テクノフォーラム 京都(8/20) EE:恒岡まさき、MB:菅原正義、MB:奥村寿子
- ◆2012技術シーズプレゼンテーションin柏崎(9/21) MB:岩井 裕、Ci: 山本隆広
- ◆燕三条モノづくり連携フォーラム(9/25-27) EC:外山茂浩
- ◆イノベーション・ジャパン2012 東京国際フォーラム(9/27,28) EE:床井良徳
- ◆第2回おおた研究・開発フェア 大田区産業プラザPiO (10/4,5) M:井山徹郎
- ◆大学は美味しい！！フェアin新潟 アオーレ長岡(10/12-14) MB:菅原正義
- ◆フードメッセinにいがた2012 朱鷺メッセ(10/16-18) MB:菅原正義、MB:奥村寿子
- ◆長岡商工会議所による本校見学会(10/23)
EE:片桐裕則、EE:竹内麻希子、MB:菅原正義、Ci:荒木信夫
- ◆新潟国際ビジネスメッセ2012 新潟市産業振興センター(10/25,26) MB:菅原正義

地域連携 ・ ・ ・ 長岡高専技術協力会

平成24年度活動実績：

講演会「柏崎刈羽原子力発電所の安全対策について」高橋明男氏

共同研究助成1件 MB:奥村寿子

企業ガイダンス(全14社：植木組、越後製菓、オーエム製作所、金井度量衡、
小杉土建工業、ダイアテック、高橋調査設計、トライテック、長岡歯車製作所、
ナミックス、日本精機、本間組、山勝電子工業、理研精機)

機械・制御分科会：次世代技術者育成講習会(全8日間)

電気電子分科会：組込みシステム開発実践(全2日間)

化学・バイオ分科会：魚沼の食品産業見学とビジネス交流会ツアー

科学・語学教育分科会：講演会（全2回）

全分科会共通で、第12回長岡高専専攻科特別研究発表会を開催

平成24年度技術相談件数：全56件

地域連携・・・NICO

(地元産業界の活性化を目指して)

◆長岡モノづくりアカデミー ～開発設計コース～

NICO,長岡技大,長岡高専による連携事業
(平成18年度産学連携製造中核人材育成事業・経産省)

◆長岡モノづくりアカデミー ～3次元CAD/CAEコース～

NICO,長岡高専による連携事業
(平成20年度「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」・経産省)

◆NICO主催の産学連携委員会への参加

地域連携・・・NAZE

(NPO法人 長岡産業活性化協会)

平成20年度より正会員として入会

◆NAZEの理事として、また交流部会幹事として テクノセンター長が就任

●NAZE全体の事業推進のための会合、および交流部会の産産ネットワーク構築事業、生産性向上支援事業、産学ネットワーク構築事業の立案・実施に向けてほぼ毎月会合を重ねている。

●NAZEスタイル 学生による企業訪問記

●企業見学会への学生の参加

●2013年6月26日(水) 18:00～ 交流部会講演会

会場：まちなかキャンパス

演題：「いま、長岡高専は・・・」

講師：渡邊校長

V 国際交流活動

国際性涵養教育の充実 ― H22以降の重点施策

地球ラボの活動
語学学習支援策
学生海外派遣研修
地域との連携による活動
留学生の受け入れと支援
まとめ



長岡高専国際交流推進センター長 吉野 正信



1.「地球ラボ」活動



国際交流の環境支援と教育プログラムの提供

低学年からの国際理解教育の充実, 留学生と日本人学生の自主的な相互啓発による国際性の涵養を目指す



- 地域国際交流プログラム
―学内外と連携した活動―
- 学生会による留学生交流会等
- 語学学習支援プログラム
- 国際関係学演習
- 長岡市, 財団法人県国際交流協会

2. 語学学習支援

- ▶ e-learning語学学習支援システム
- ▶ 英語スピーチコンテスト
- ▶ 英文エッセイコンテスト
- ▶ 英語 多読・多聴(市民センターにも設置)
- ▶ TOEIC(4, AC1全員)/英検(1,3年)
- ▶ 英語授業時間数増加(H25カリキュラム変更)
- ▶ 後援会による援助



3. 学生海外派遣研修

◆平成22年度(22名)

行き先	参加人数	主な訪問先
マレーシア	9名	マラ工科大学
オーストラリア	6名	ゴールドコースト, プリスベン
ベトナム	5名	ハノイ工科大学, フェ
中国	2名	南海東軟信息技術職業学院

◆平成23年度(20名)

中国	10名	黒竜江工程学院
マレーシア・シンガポール	10名	クアラルンプール, シンガポール大学

◆平成24年度(38名)

シンガポール	23名	バイオポリス, ポリテクニク
ベトナム	13名	ハノイコミュニティーカレッジ
中国	2名	黒竜江工程学院交換留学

◆平成25年度(35名)

シンガポール	12名	バイオポリス, リパブリックポリテクニク
タイ	11名	泰日工業大学でロボット競技(4年生以上)
ベトナム	12名	フェ外国語大, ハノイコミュニティーカレッジ

海外研修事例



H24年 シンガポールバイオポリス



H24年 ベトナム研修



H25年 泰日工業大でロボット対戦交流

4. 地域連携による活動

● 長岡市一官連携

市の国際交流センター長 による「国際関係学演習」科目を開講
→国際交流に関する情報の共有化あるいは活動の幅の広がり

● 長岡高専技術協力会一産連携

「国際交流講演会」学生向け定例講演会
企業技術者から、技術と経済・文化・伝統・言語まで広範囲な話題
ディスカッションを通して異文化の理解を深める

● 雪つばきの会一民連携

日本伝統文化研修を通じた国際理解や交流活動, 成果発表会

4-1.官連携

●国際関係学演習(異文化や多文化共生への理解)

→H20.4月より, 通年1単位で開講

→長岡市との連携

(講師:長岡市国際交流センター長)

留学生の学習チューターと生活チューターも参加



●(財)県国際交流協会の国際理解重点校への指定

(H22から3年間)

→3年生全員を対象に国際理解講座を開催

→外国から県に派遣されている方による講演(H24は韓国出身の方)

4-2.産連携, 技術協力会

●国際交流講演会(産連携)

→ 企業技術者の海外勤務・活動

→ 学生向け定期開催

→ 技術協力会との連携 (講師:地域企業技術者等)

地域企業からの国際性育成支援

○平成24年度 講演題目

「物造り企業の海外進出の現状」

講師:(株)北越電研 平石孝史会長

4-3. 留学生支援

5.留学生の現状

年度	在籍数	専攻科 (内数)	私費留学生 (内数)
H22	21	0	3
H23	22	0	4
H24	20	0	5
H25	20	2	7

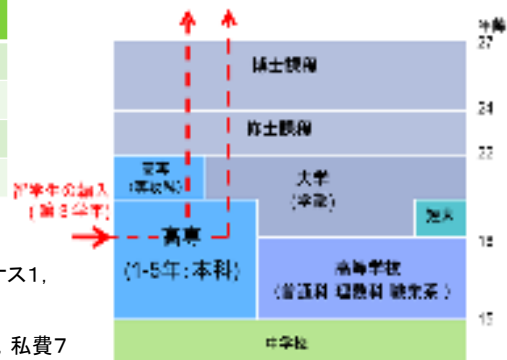
国別(H25)

マレーシア10, インドネシア2, イラン1, ラオス1,
ベトナム5, モンゴル1

奨学金別：マレーシア派遣10，日本国費3，私費7

高専卒業後:

ここ数年は全員が国立大学に編入



機構による留学生対応

- ・私費留学生の受け入れ体制の確立 → 統一試験の実施、合格者を各校で受け入れ
- ・マレーシア政府派遣留学生給付金延長の取り組み → 平成27年度入学生より専攻科も延長可能

問題点

- ・私費留学生の増加とその奨学金の貧弱さ

6.まとめ

- 1) 地球ラボ活動
- 2) 学生海外派遣研修
- 3) 地域連携による活動
- 4) 留学生支援
- 5) 語学学習支援

= 持続可能な国際協同教育の
実践と継続

VI 管理運営

1 管理運営体制

2 事務組織

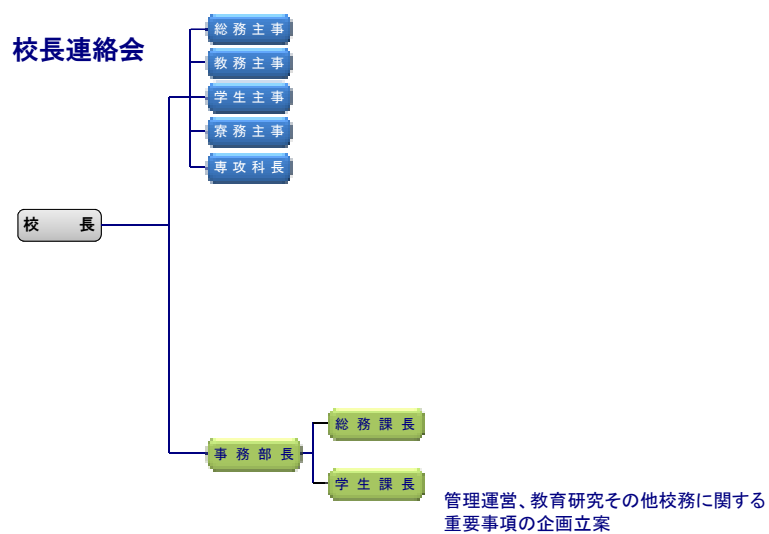
- 事務部
- 職員の資質向上
- 学生関係業務の強化
- 業務改善の取組

3 財 務

- 経費配分
- 課題

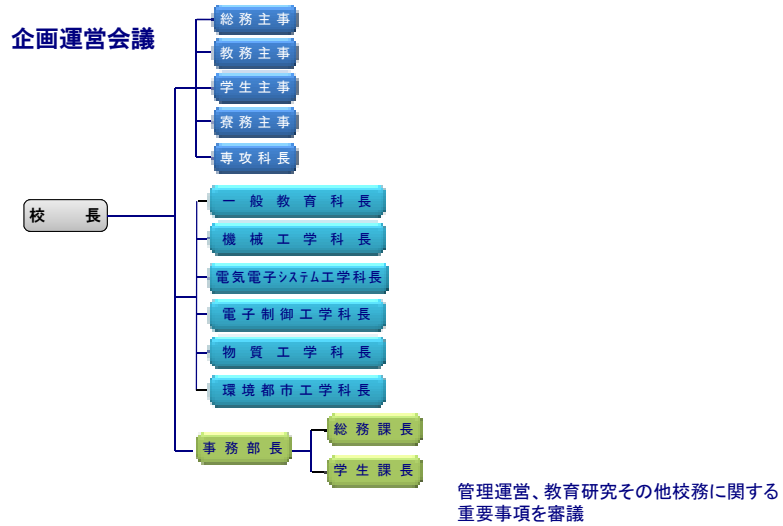
1

1 管理運営体制



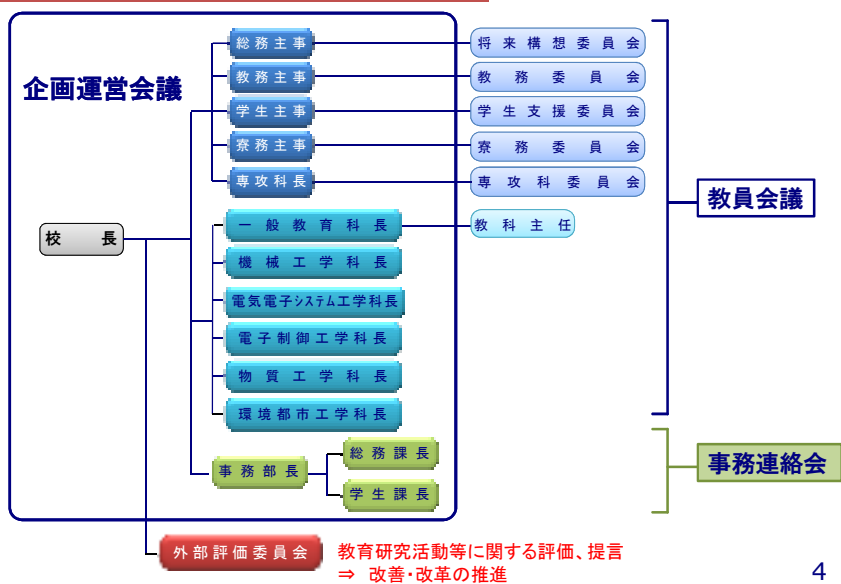
2

1 管理運営体制



3

1 管理運営体制



4

■ 学内組織の見直し

□ 広報戦略室

- ◆ 入学者対策室と広報委員会を廃止し、広報活動を一元化

□ 男女共同参画推進室

- ◆ 学内の男女共同参画推進のため新設

□ 安心・安全環境整備会議

- ◆ 学内組織が連携して危機管理対策を行うため新設

5

2 事務組織

■ 事務部

総務課と学生課の2課体制 29名（非常勤は除く）

■ 職員の能力向上

□ 研修

- ◆ 高専機構、県内国立大学との合同研修等に積極的に参加

□ 人事交流

- ◆ 長岡技術科学大学 7名
- ◆ 新潟大学 2名

■ 学生関係業務の強化

□ 学生課職員を増員

■ 業務改善の取組

- 業務改善等目標評価を実施
- 他高専と相互監査を実施

6

3 財 務

■ 経費配分

□ 計画的な経費配分

- ◆ 教育研究設備の整備に必要な重点施策経費 2,000万円（平成25年度）を措置
- ◆ 大型の教育研究機器の更新は、「設備整備マスタープラン」を策定し、高専機構へ要求

□ インセンティブ付与

- ◆ 科研費申請者に2万円、採択者に5万円の追加配分

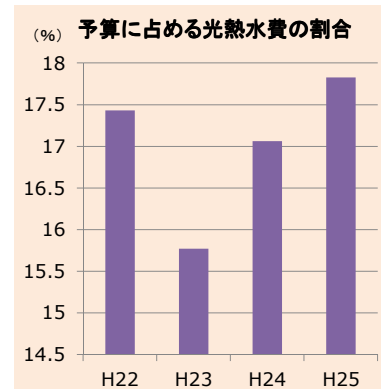
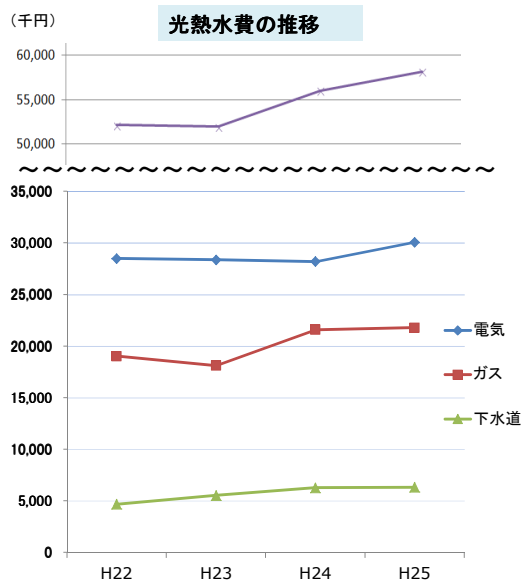
□ 教職員の負担軽減策

- ◆ 学生寮の宿直業務の一部をOB教員に委託
- ◆ 課外活動の外部コーチ採用

7

■ 課題

□ 光熱水費の負担増



8

平成25年度 長岡工業高等専門学校外部評価委員会
長岡工業高等専門学校に対する評価表（意見・提言等）

外部評価委員

氏 名

右記の評価基準に基づき、項目ごとに評価点のご記入をお願いいたします。

また、ご意見・ご提言等がございましたら、ご記入ください。

なお、恐れ入りますが、11月25日（月）までにご返信下さいますようお願いいたします。

※返信先：shomu@nagaoka-ct.ac.jp

長岡高専総務課総務グループ

評価点	評価基準
5	特に優れている
4	優れている
3	普通
2	劣っている
1	特に劣っている

I 長岡高専概要（評価点： 点）

沿革、教育理念・教育目標、教育体制、中期計画・年度計画、点検と評価、広報活動についてご意見・ご提言等がございましたらご記入をお願いいたします。

Ⅱ 教育活動（評価点： 点）

入学者の確保、教育課程の編成、優れた教員の確保、教育の質の向上・改善、進路指導状況についてご意見・ご提言等がございましたらご記入をお願いいたします。

Ⅲ 学生支援・生活支援活動（評価点： 点）

学生相談体制、メンタルヘルス、就学支援、各種大会等の支援体制、寮生活支援についてご意見・ご提言等がございましたらご記入をお願いいたします。

Ⅳ 研究活動と地域連携（評価点： 点）

外部資金獲得、知的財産、産学連携についてご意見・ご提言等がございましたらご記入をお願いいたします。

Ⅴ 国際交流活動（評価点： 点）

国際交流活動の推進状況、学生の海外派遣、地球ラボ、留学生に対する支援についてご意見・ご提言等がございましたらご記入をお願いいたします。

Ⅵ 管理運営（評価点： 点）

管理運営体制、業務の効率化、職員の能力向上、計画的な経費配分についてご意見・ご提言等がございましたらご記入をお願いいたします。

Ⅶ 総合評価（評価点： 点）

本校についての総合的なご意見・ご提言等がございましたらご記入をお願いいたします。

Ⅷ その他

本校の外部評価委員会の在り方、開催頻度、評価委員の選出方法、評価項目等についてご意見・ご提言等がございましたらご記入をお願いいたします。

以上 ご協力ありがとうございました。

平成 2 5 年度 長岡工業高等専門学校外部評価委員会 配付資料一覧

- 資料 1 平成 2 5 年度 長岡工業高等専門学校外部評価委員会 次第
- 資料 2 平成 2 5 年度 長岡工業高等専門学校外部評価委員会 委員名簿
- 資料 3 平成 2 5 年度 長岡工業高等専門学校外部評価委員会 出席者名簿
- 資料 4 長岡工業高等専門学校外部評価実施要項
- 資料 5 長岡工業高等専門学校 自己点検評価報告書 平成 2 4 年度
- 資料 6 平成 2 5 年度 長岡工業高等専門学校外部評価委員会 説明資料
- 資料 7 長岡工業高等専門学校に対する評価表（意見・提言等）
- 資料 8 長岡工業高等専門学校 平成 2 5 年度外部評価委員会委員名簿
- 資料 9 長岡工業高等専門学校 第 2 期 中期計画
- 資料10 長岡工業高等専門学校 平成 2 4 年度年度計画
- 資料11 長岡工業高等専門学校 平成 2 4 年度自己点検評価報告書
- 資料12 長岡工業高等専門学校 平成 2 5 年度 学校要覧
- 資料13 長岡高専 学校案内 2 0 1 4
- 資料14 長岡高専 専攻科案内 2 0 1 4
- 資料15 高志台 学園だより V o l . 1 7 9 （2013. 7. 26）
- 資料16 図書館だより 第 4 6 号 （2013. 7）
- 資料17 悠久の風 年報第 1 0 号 地域共同テクノセンター
- 資料18 国際交流推進センター通信 第三号
- 資料19 平成 2 2 年度外部評価報告書（平成 2 2 年 1 1 月発行）

2. 長岡工業高等専門学校 関係者

職 名	氏 名	職 名	氏 名
校長	渡邊 和忠	図書館長	塩野 計司
総務主事（副校長） 広報戦略室長	山田 隆一	総合情報処理センター長	太刀川信一
教務主事（副校長） 教育研究技術支援センター長	山崎 誠	地域共同テクノセンター長	片桐 裕則
学生主事（校長補佐） 課外教育活動センター長	鈴木 秋弘	雪氷低温技術教育研究センター長	河田 剛毅
寮務主事（校長補佐）	阿部 高弘	国際交流推進センター長	吉野 正信
専攻科長（校長補佐）	宮腰 和弘	入学者対策部門長	高橋 章
一般教育科長	相原 勝	学生相談室長	猪平 直人
機械工学科長	青柳 成俊	事務部長	星 操
電気電子システム工学科長	中村 奨	総務課長	山谷 利明
電子制御工学科長	梅田 幹雄	学生課長	小林喜與志
物質工学科長 広報部門長	坂井 俊彦	総務課課長補佐（庶務担当）	萩原 誠
環境都市工学科長	荒木 信夫	総務課課長補佐（会計担当）	井部 達也
		学生課課長補佐	堀 圭司

計 2 5 名

長岡工業高等専門学校
外 部 評 価 報 告 書

発 行：平成25年12月

編 集：長岡工業高等専門学校

〒940-8532

新潟県長岡市西片貝町888番地

TEL：0258-32-6435